

大和川今池遺跡

2008年3月

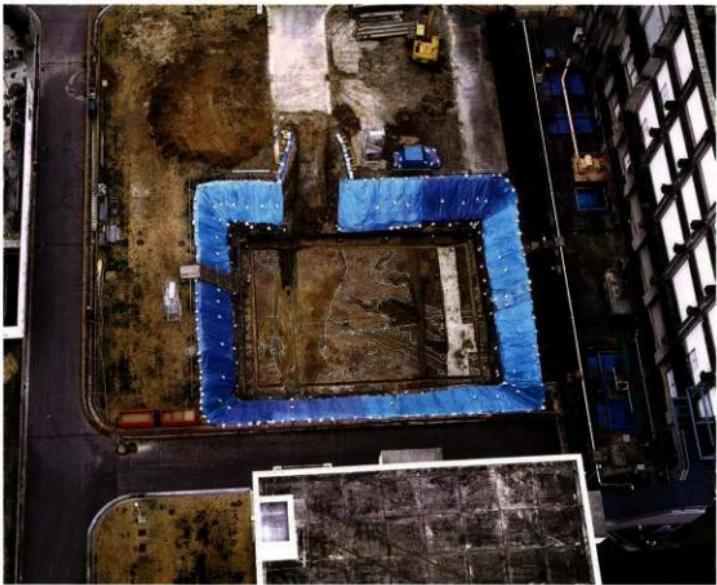
大阪府教育委員会

大和川今池遺跡

大阪府教育委員会



a 調査地より東南の二上山を望む



b 3区全景（上が東）

はじめに

大和川今池遺跡は、大和川を挟んで堺市、松原市、大阪市にまたがって所在する遺跡です。この遺跡は、昭和52年に実施された今池処理場（現 今池水みらいセンター）の建設に伴う試掘調査で確認され、以後、今池処理場や府営住宅建替え、大和川高水敷整備事業などに伴う発掘調査が継続的に実施されています。これまでの調査では、奈良時代の「難波宮」朱雀大路の南延伸上となる「難波大道」跡が検出されたほか、古墳時代から鎌倉時代の集落跡や生産遺構の検出など、多大な成果が得られています。

今回の報告は、今池処理場（現 今池水みらいセンター）内の施設建設に伴い、平成17年度、平成18年度に実施した発掘調査の成果です。発掘調査では、古墳時代から鎌倉時代の耕作跡、溝などの遺構や遺物を検出しました。また、その下層から自然河川跡が検出され、古墳時代の遺構が形成される以前の当地の状況を知る上で、貴重な手がかりになるものと考えられます。

本調査を実施するにあたっては、大阪府都市整備部南部流域下水道事務所、今池処理場、松原市教育委員会、堺市教育委員会、及び地元の方々をはじめとする関係各位に、多人なご協力を賜り、厚く感謝いたしますとともに、今後とも文化財保護行政により一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成20年3月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 富 尾 昌 秀

例　　言

1. 本書は、大阪府教育委員会が大阪府都市整備部の依頼により、大和川下水処理場（現　水みらいセンター）内施設、汚泥濃縮棟・管廊・焼却施設建設工事に伴い実施した松原市天美西7丁目所在、大和川今池遺跡の発掘調査（05020・06007）報告書である。
2. 現地における発掘調査は、文化財保護課調査第二グループ技師　杉本清美を担当者として、平成17年6月～平成18年3月、平成18年6月～10月に実施した。遺物整理は、平成18・19年度に調査管理グループ主査　三宅正浩、技師　藤田道子を担当者として実施した。
3. 本調査の写真測量は、機械濃縮棟・管廊については、(株)日建技術コンサルタントに委託した。また、焼却炉棟東側部については(株)アイシー、焼却炉棟西側部については大阪測量(株)に委託した。なお、撮影フィルムは各社において保管している。
4. 遺物写真の撮影は有限会社阿南写真工房に委託して実施した。遺構の写真撮影については、担当者が行なった。
5. 出土遺物および記録資料は、大阪府教育委員会で保管している。
6. 本書の執筆・編集は杉本が行った。
7. 報告書作成にあたっては、松原市教育委員会、堺市教育委員会、(財)大阪府文化財センターの各機関から助言と協力を得ました。記して感謝いたします。
8. 発掘調査・遺物整理及び本書の作成に要した経費はすべて、大阪府都市整備部が負担した。
9. 本報告書は300部作成し、一部あたりの単価は987円である。

凡　　例

1. 本文・挿図に用いた標高は東京湾平均海面（T.P.値）を示す。また、座標値は世界測地系平面直角座標（第VI系）によるもので、方位は座標北を示す。
2. 土色については、基本的に小山正忠・竹原秀夫編『新版土色帖』日本色彩研究所 1992年版に準拠した。
3. 遺構番号については、検出順に通し番号を付けた。
4. 遺物については、挿図、写真図版の番号を一致させた。

本文目次

はじめに

例言

第1章 調査に至る経過	1
1. 調査の経緯	1
2. 調査の方法	5
第2章 調査の成果	9
1. 1区の調査	9
2. 2区の調査	16
3. 3区の調査	21
4. 4区の調査	27
第4章 まとめ	33

挿図目次

第1図 大和川今池遺跡位置図	1
第2図 周辺の遺跡	2
第3図 既往の調査地位置図	3
第4図 調査区位置図	4
第5図 地区割り図	5
第6図 1区・2区遺構平面図	7～8
第7図 1区南壁断面図	10
第8図 1区遺構断面図-①	11
第9図 1区遺構断面図-②	13
第10図 1区出土遺物実測図	15
第11図 2区壁断面図	17～18
第12図 2区遺構断面図	19
第13図 3区・4区遺構平面図	21
第14図 3区南壁断面図	22
第15図 3区遺構断面図	24
第16図 3区出土遺物実測図	25
第17図 4区西壁断面図	28
第18図 4区遺構断面図	29
第19図 4区河川平・断面図	31
第20図 4区出土遺物・各区出土石器実測図	32

図版目次

- 巻頭図版 a. 調査地から南東の丘上山を望む b. 3区全景（上が東）
表紙 調査区（3区）遠景（北から）
図版1 1区・2区全景（西が上）
図版2 1区検出遺構 a. 南壁断面 b. 畦畔（南から）
図版3 1区検出遺構 a. 遺構3断面（東から） b. 遺構6断面（東から）
c. 遺構10断面（西から） d. 遺構15（南から） e. 遺構22断面（西から）
f. 遺構23断面（西から） g. 遺物出土状況 h. 遺物出土状況
図版4 2区検出遺構 a. 南壁断面 b. 畦畔（北から）
図版5 2区検出遺構 a. 遺構33断面（東から） b. 遺構35断面（西から）
c. 遺構49断面（北から） d. 遺構50断面（北から） e. 遺構53断面（西から）
f. 遺構56断面（西から） g. 遺構67断面（東から） h. 出土遺物
図版6 3区・4区全景（北が上）
図版7 3区検出遺構 a. 第1面全景（北から） b. 第2面全景（東から）
図版8 3区検出遺構 a. 畦畔（南から） b. 畦畔断面（西から）
c. P-246断面（南から） d. 遺構230・P-231断面（南から）
e. 遺構293断面（西から） f. 遺構283断面（北から）
図版9 3区検出遺構 a. 遺構270断面（西から） b. 遺構241断面（東から）
c. 須恵器壺蓋出土状況 d. 須恵器壺蓋出土状況
e. 第4面河川検出状況（北から） f. 河川断面（南東から）
図版10 4区検出遺構 a. 第2面全景（南から） b. 第3面全景（北から）
図版11 4区検出遺構 a. 遺構111・112・115検出状況（東から）
b. 遺構129断面（東から） c. 畦畔断面（東から） d. 畦畔検出状況（東から）
図版12 1区出土遺物
図版13 1区出土遺物
図版14 1区出土遺物
図版15 2区・3区出土遺物
図版16 3区出土遺物
図版17 3区出土遺物
図版18 4区出土遺物

表目次

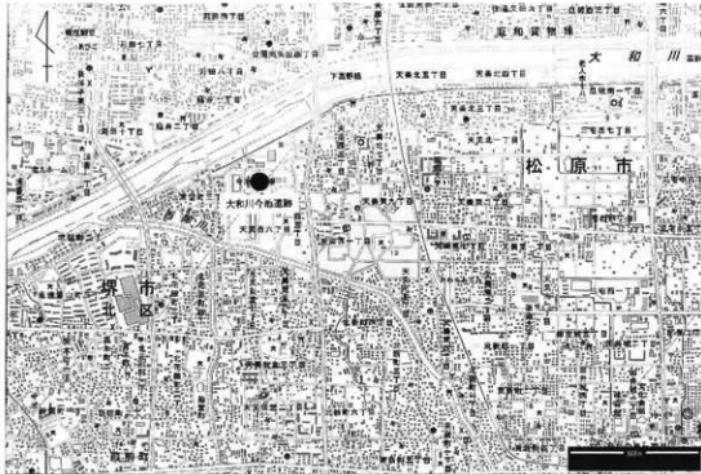
表1 出土遺物対照表	34
------------------	----

第1章 調査に至る経過

1. 調査の経緯 (第1図)

大和川今池遺跡は、堺市北区常磐町・松原市天美西、大阪市住吉区庭井・東住吉区矢田にかけての東西約1.5km、南北約1kmの範囲に広がる遺跡である。昭和52年度に実施された「大和川下流西部流域下水道今池処理場（現 今池水みらいセンター）」建設工事に先立つ試掘調査で発見された。試掘調査の結果、昭和53年度から「大和川今池遺跡調査会」によって処理場内の施設建設計画に伴い発掘調査が実施された。以来、大阪府教育委員会、堺市教育委員会、松原市教育委員会、(財)大阪府文化財センターにより発掘調査が重ねられている（第3図）。

今池処理場周辺では、昭和58、59年度に府営松原天美住宅代替えに伴う発掘調査が実施され、奈良時代から平安時代の集落跡や鎌倉時代の集落跡が検出された。平成8年度から平成15年度には、国土交通省近畿建設局が計画した大和川高水敷整備事業に伴う大和川河川敷での発掘調査が実施され、古墳時代の掘立柱建物や奈良時代から平安時代の集落跡と生産遺構、中世の豪族居館を囲んだとされる方形区画溝跡などが確認されている。さらに、近年では、阪神高速道路大和川線建設事業に伴う発掘調査が、当遺跡の東側に位置する三宅遺跡、池内遺跡から続いて実施されている（第2図）。大和川今池遺跡の発掘調査については、大阪府教育委員会、(財)大阪府文化財センター、松原市教育委員会、堺市教育委員会などでその成果が報告されている。大和川今池遺跡の既刊図書やそれらの成果については、岩瀬透氏、後川恵太郎氏（『大和川今池遺跡（その1・その2）』（財）大阪府文化財調査研究センター）などによって詳述されている。参照されたい。



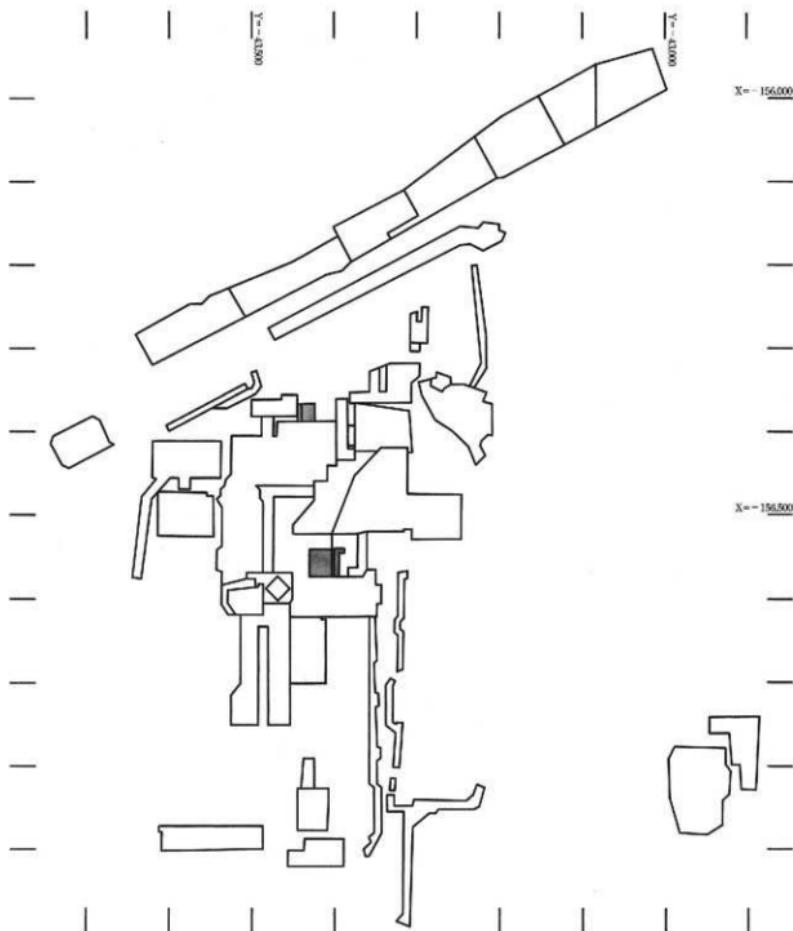
第1図 大和川今池遺跡位置図



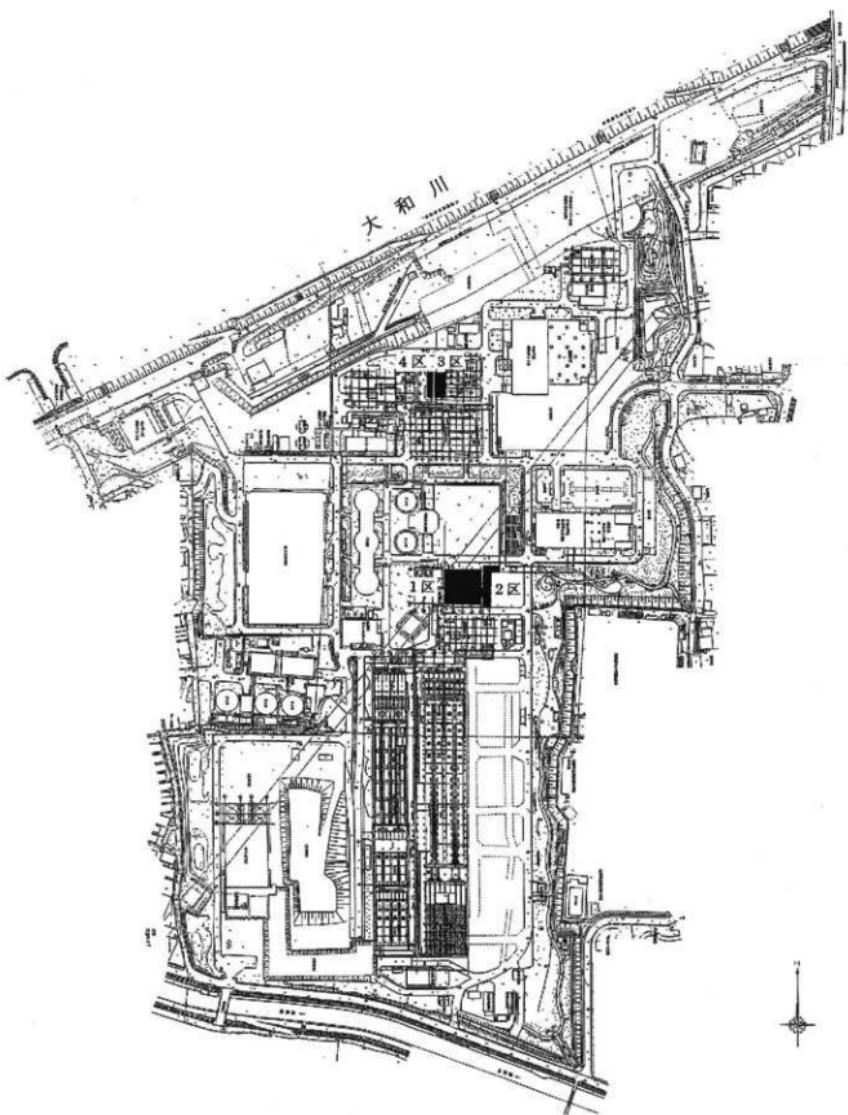
1. 大和川今池遺跡	2. 依網池跡	3. 難波大道(大阪市)	4. 難波大道(堺市)
5. 北花田遺跡	6. 東淀香山西遺跡	7. 我堂南遺跡	8. 銀錆古墳
10. 城遺跡	11. 清水遺跡	12. 布忍遺跡	9. 高木遺跡
15. 河合遺跡	16. 南花田遺跡	17. 新金岡3丁目遺跡	14. 南新町遺跡
20. 五個荘東遺跡	21. 蔵前遺跡	22. 奥本町遺跡	19. 船室町遺跡
25. 東淀香山西遺跡	26. 萩花田遺跡	27. 大豆塚遺跡	23. 今池遺跡
30. 山之内遺跡	31. 速里小野遺跡	32. 天美南遺跡	18. 大津道
35. 住道寺跡	36. 中臣須牟知神社境内遺跡	33. 池内遺跡	24. 金岡公園遺跡
39. 我孫子城跡伝承地	40. 寺岡砦跡	37. 矢田部遺跡	29. 南出井遺跡
43. 在原淨土寺境内遺跡	41. 南住吉遺跡	42. 駿辻遺跡	34. 斎達寺遺跡
47. 長居裏2丁目所在遺跡	48. 城造寺東遺跡	45. 熊ヶ丘矢田遺跡	38. 新堀城跡伝承地
48. 菊田4丁目所在遺跡	49. 菊田9丁目所在遺跡	50. 天美西遺跡	46. 矢田2丁目所在遺跡
49. 菊田9丁目所在遺跡			51. 東新町遺跡

第2図 周辺の遺跡

今回の発掘調査は、大阪府土木部の依頼により、平成17年度、平成18年度に実施した大和川下水処理場（現 今池水みらいセンター）内施設の築造事業に伴う発掘調査である。平成17年度は、機械濃縮棟（1区）、管廊（2区）、焼却炉棟東部（3区）において、平成17年6月23日から平成18年3月24日まで発掘調査を実施することとなった。平成18年度は、焼却炉棟西部（4区）において、平成18年6月20日から10月31日まで発掘調査を実施することとなった（第5図）。



第3図 既往の調査地位置図

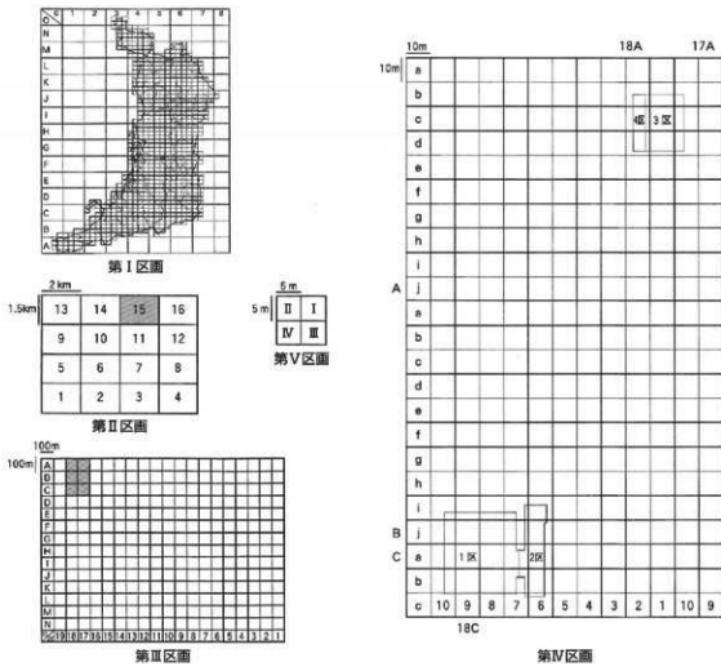


第4図 調査区位置図

2. 調査の方法 (第4図)

大阪府教育委員会の発掘調査では、遺跡・遺構の座標位置を共通した方法で表示できるよう、(財)大阪文化財センター(現(財)大阪府文化財センター)が規定した「遺跡調査基本マニュアル」に則って地区割り区画を設定している。遺跡・遺構の位置については、国土座標系図の平面直角座標系の東経136°、北緯36°(若狭湾内)を基準とする国土座標軸第VI座標系を使用し、起点からの距離をX・Y値で表記している。地区割りについては、大小5段階の区画を設定している。

第I区画は、1/10,000地形図の地区割りを利用したもので、縦6km、横8kmが1区画となる。経度、緯度の南西端を基準に、縦軸を南からA～O、横軸を西から0～8で表示する。第II区画は、1/2,500の大坂府都市計画図の地区割りを利用したもので、第I区画を縦1.5km、横2.0kmに16分割し、南西端を1として北東端を16とする東方向への平行方式の地区表示である。第III区画は、第II区画内を100m単位で区画するもので、縦(南北)1.5kmを15区画、横(東西)2.0kmを20区画に区分する。区画の北東端を基点として縦を北からA～O、横を東から1～20で表示する。第IV区画は、100m四方の第III区画内を10m単位で区画するもので、縦、横を各10区画に区分する。区画の北東端を基点として縦を北からa～j、横を東から1～10で表示する。さらに、遺物



第5図 地区割り図

の取り上げや実測記録等の際に必要に応じて使用する区画として、第V区画がある。第V区画は、第IV区画内を5m単位で4分割するもので、北東端を基準として北東区画をI、北西区画をII、南東区画をIII、南西区画をIVと表示する。

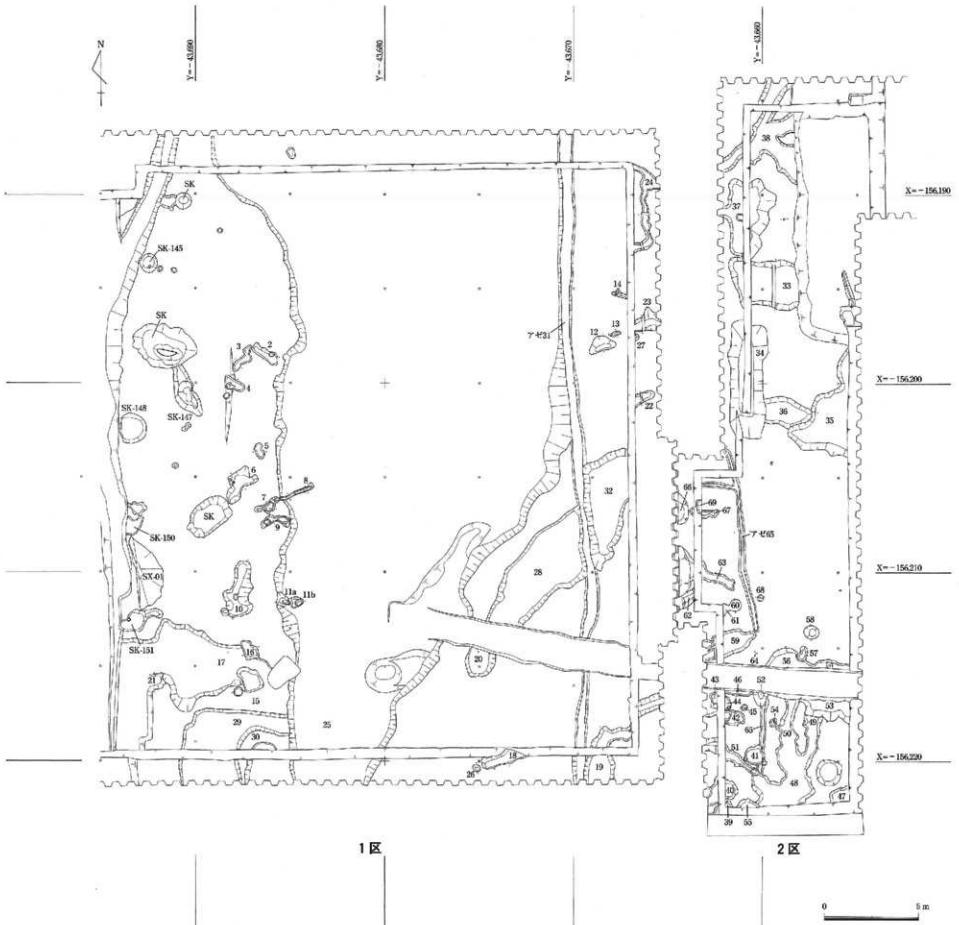
今回の調査では、調査区内で第V区画までを利用して地区を表示した。各調査区の区画表示は、次例のようになる。

機械濃縮棟（1区）	F 5 - 15 - B18 - i 7 - I
	F 5 - 15 - C18 - a 10 - IV
管廊（2区）	F 5 - 15 - B18 - i 6 - I
	F 5 - 15 - C18 - a 7 - IV
焼却炉棟東部（3区）	F 5 - 15 - A17 - b 10 - I
	F 5 - 15 - A18 - d 2 - IV
焼却炉棟西部（4区）	F 5 - 15 - A18 - b 2 - I

特記すべきこととして、2003年度から座標値が国際基準の基づく世界測地系の座標に変更された。そのため2003年度以前の調査で示されている座標値と新測地系座標値とでは、東南方向に約400mのずれが生じている。これに伴い、座標値から導かれた地区割り表記についても、以前のものとはずれが生じているので注意したい。

方位は座標北を使用している。調査地点では真北から西に0° 15' 39"振っている。水準は、東京湾平均海面（T.P.）を使用した。

検出された遺構は、ヘリコプターを利用して航空測量を行い、1/20の遺構平面図とあわせて縮小編纂した1/100の遺構平面図を作成している。また、遺構の検出状況や遺物の出土状況で必要に応じ、国土座標に則って打設された調査基準杭を基に、現地で平板測量による実測平面図を作成している。



第2章 調査の成果

1. 1区の調査（第6図・図版1～3）

1区は、今池処理場（現 今池水みらいセンター）内の施設、機械収納棟の建設に伴う調査区で、処理場内に設置されている関西電力（株）の高圧線鉄塔の北東側に位置する。調査区周囲は矢板で区切られている。調査範囲内の西部分で、昭和63年度に実施された調査区C地区（「大和川今池遺跡発掘調査概要VI」1990.3）の遺構を確認した。このため、1区は東西方向に28m、南北方向に34m、さらに東側に管廊との接続部として南北方向に10m、東側方向に1mの張出し部を有する方形形状を調査範囲とした。面積は1,246.7m²を測る。航空測量はクレーンにて行なった。

発掘調査は、平成17年6月27日に開始し、同年10月7日に終了した。

基本層序（第7図・図版2）

今回の調査地は、今池処理場内の施設築造工事で発生した土砂や産業廃棄物などが旧地表面から約4m近く盛土されていた。このため、発掘調査前に事業者側で現地表面（T.P. 13.0m）から旧地表面までの盛土を除去し、その後に旧耕土層（T.P. 9.2～9.0m）を文化財保護課側で重機にて掘削することになった。土層断面は旧耕土層除去後のものである。

0層（0層） 上層の盛土・擾乱土及び旧耕土層。

I層（1層） 旧耕土の床土層。基本的に1層であるが部分的に2～3層に分けることができる。

層境に鉄分沈着する。層厚は10～15cmを測る。1層下面で第1面相当の耕作溝跡を検出した。中世から近世代に相当するものと考えられる。

II層（2層） 黒褐色ないし茶褐色粘質土を基本とする層で、中世代の耕作土層と考えられる。

瓦器片、土師質羽釜片、青・白磁片などが出土した。層厚は10～15cmを測る。

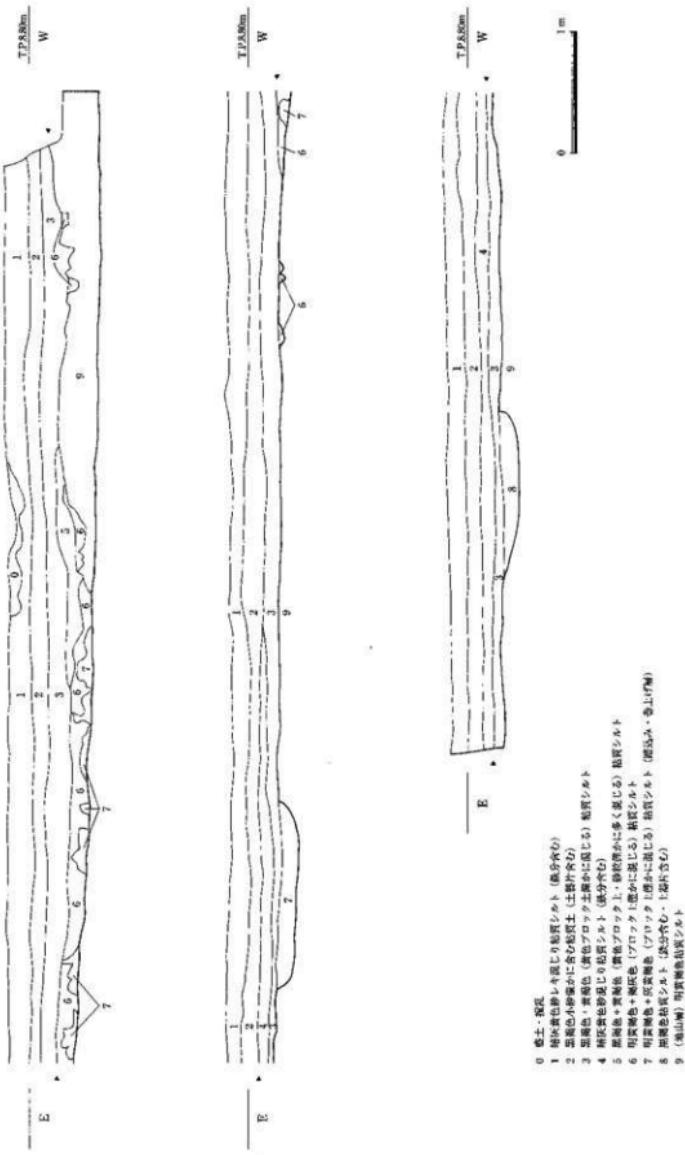
III層（3・4・5層） 黒褐色ないし暗灰黄色砂混じり粘質シルトを基本とする層で、古墳時代から平安時代にかけての堆積層と考えられる。東側に向かって厚くなる。層厚はそれぞれ5～10cmを測る。須恵器杯身・杯蓋・高杯・杯・甌・甌片、土師器壺片・把手、黒色土器片などの細片が多く出土した。下面で第2面相当の溝、不定形土坑、畦畔などを検出した。

IV層（6・7層） 明黄褐色粘質シルトを基本とする踏み込み、巻上げ層で、底面は凹凸を成す。

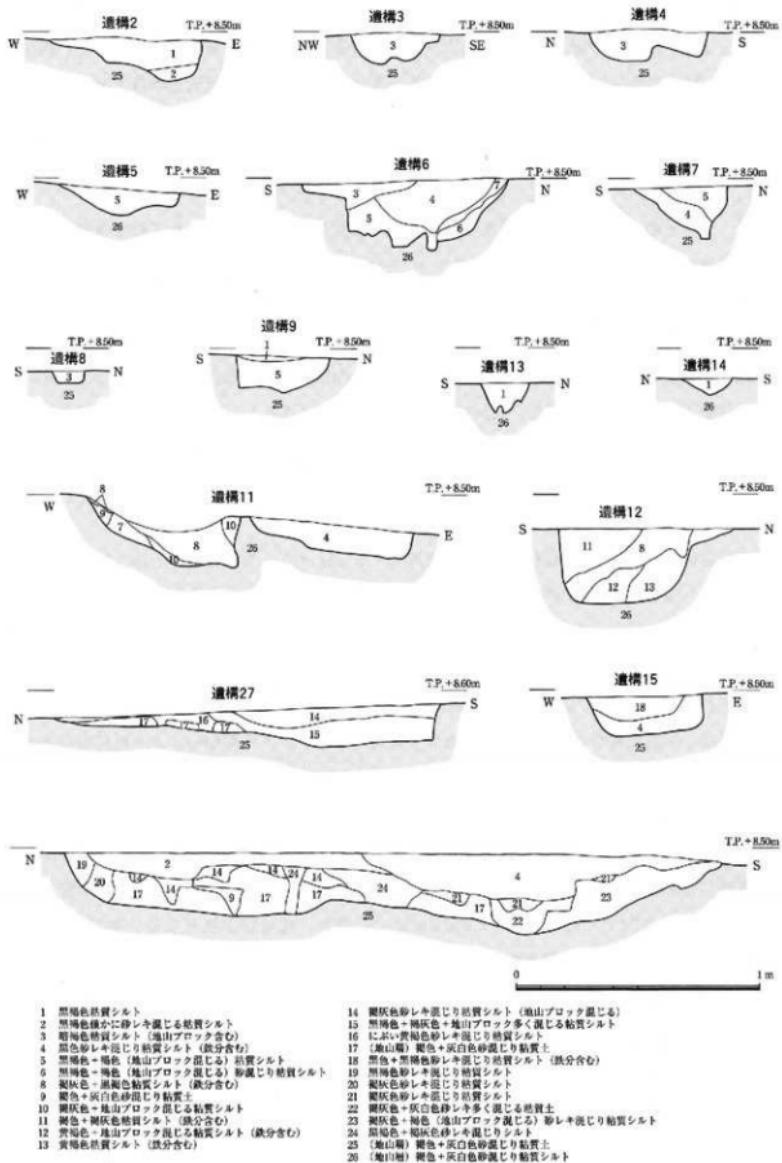
不定形土坑や溝など遺構の堆積層に相当する。層厚は2～10cmを測る。須恵器小片、土師器片などの細片が僅かに出土した。古墳時代から平安時代にかけての堆積層と考えられる。

V層（9層） 調査区内の地山層で、明黄褐色粘質土である。東側に向かって低くなる。

VI層（8層） 不定形土坑など遺構内の堆積土で、黒褐色粘質シルトである。下層が鉄分沈着する。遺構18、遺構19の埋土に相当する。層厚は5～10cmを測る。遺構内から僅かではあるが須恵器高杯片、甌片などが出土した。古墳時代から平安時代にかけての堆積層と考えられる。



第7図 1区南壁断面図



第8図 1区造構断面図①

検出遺構（第8・9図・図版2・3）

第1面 1層の旧耕土の床土層を除去した下面で、東西方向に延びる鏽溝跡を検出した。検出高はT.P. 8.90mを測る。鏽溝は幅10cm、長さ7~8mを測る。埋土は黄灰色砂質土ないし灰オリーブ色粘質シルトで、深さ2~5cmを測る。擾乱による削平を受けているため部分的な検出となつた。包含層から瓦器片、陶磁器片などが出土した。中世から近世に相当するものと考えられる。

第2面 3・4層の黒褐色ないし暗灰黄色砂混じり粘質シルト層を掘削した下面で遺構を確認した。検出高は西側でT.P. 8.50m、東側でT.P. 8.35mを測る。主に、南側から延びる溝17・25・29・28・19と、南北方向の溝から北側へと一気に広がる窪地状土坑・溝25、窪地状土坑の東側で南北方向に延びる畦畔31（図版2-b）を検出した。さらに、畦畔の東側では、浅い不定形土坑12・13・14・27や溝22・23・24を検出した。窪地状土坑の西側は土手状に微高地となっており、自然堤防状を示す。微高地上では、大小の不定形土坑2・3・4・5・6・10・11や溝状土坑7・8・9などを検出した。さらに、須恵器甕、高杯、杯身、蓋片、土師器片などが南北方向に集中して帶状に散在していた（土器集中帶）（図版2-g・h）。出土遺物などから古墳時代後半から平安時代に相当すると考えられる。

調査区西側の微高地上で検出した不定形土坑2・3・4・5・6・10・11・16・21、及び溝状土坑7・8・9は、掘り方が安定せず底部は入り組んだ凹凸を成す。深さは20~60cmを測る。埋土は、黒褐色粘質シルト及び地山層の褐色ブロック土などが乱雜に混じり合っている状況が見られた。埋土内からは、須恵器杯身・把手付き蓋・土師器片などが出土した。

ピット15（図版3-d）は直径50cmの円形ピットで、掘り方は筒状を示す。深さは20cmを測る。埋土は、黒色粘質シルト及び黒褐色砂レキ混じり粘質シルトで細かいスス上炭化物を多く含む。スミ・灰などをピット内に廃棄したものと考えられる。ピット周辺では、焼けて溶着した須恵器片（68・69）や焼土塊（70~73）などが出土している。

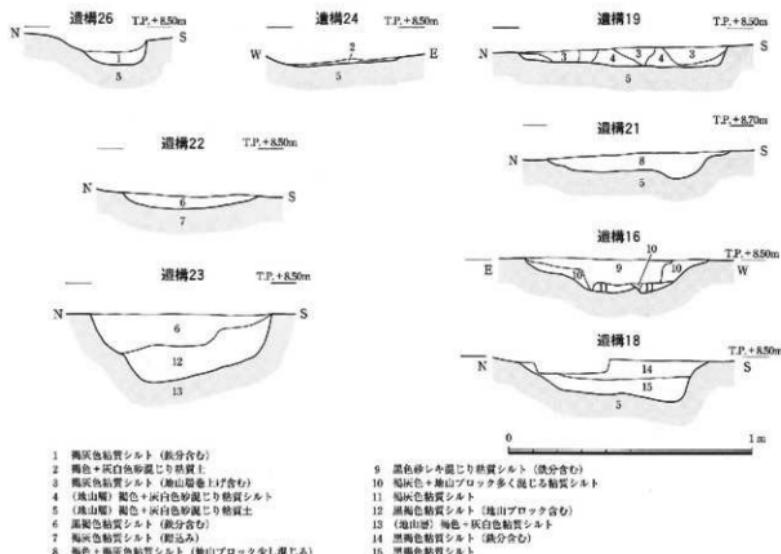
調査区南側では、昭和63年度に発掘調査を実施した調査区D・E区〔大和川今池遺跡発掘調査概要VI〕1990.3で検出された溝の続（溝17・25・29）を確認した。溝25は溝幅が約5mであったが、調査区内で一気に広がって幅15m以上を測り、窪地状土坑となる。検出高はT.P. 8.40mを測る。堆積状況は南壁断面（第7図）の西から4~10m付近で見られる5層・6層・7層に相当する。5層は北側で厚みを増し層厚10~30cmとなる。窪地状土坑の下面では、一面に無数の踏み込み跡が見られた。人・牛などのものと推定される。窪地状土坑内からは、ほとんど遺物は出土しなかつた。この窪地状土坑が完全に埋没するのは、遺構上層の3層の出土遺物から平安時代頃に相当すると考えられる。

窪地状土坑の東側には南北方向の畦畔31が延びている。検出高はT.P. 8.45mを測る。窪地状土坑を区画する様相を呈す。また、調査区西側で土器が帶状に堆積する微高地肩部とほぼ平行を成す。畦畔の幅は50~80cm、高さ15~20cmを測る。盛土は、暗灰褐色ないし暗灰オリーブ色砂

混じり粘質シルトを湿地状の浅く大きな不定形土坑20・28・32や土坑12・13・14、溝18・19・22・23・24、ピット26・27などが見られた。検出高はT.P. 8.35mを測る。

浅く大きな不定形土坑20・28・32は、南西から北東方向に広がる土坑で、幅約3m、深さ約2cmを測る。埋土は、黒褐色粘質シルトに地山層の明黄褐色ブロック土などが踏み込みにより混じり合っている状況が見られた。遺物は出土しなかった。溝18・19・22・23・24は、不定形土坑20他と同様に浅く、踏み込みにより地山ブロック土などが巻き上げられ混じり合う状況が見られた。遺物は出土しなかった。土坑12・13・14、ピット26・27は、深い窓み状を示すもので底部は凹凸を成す。深さは約10cmを測る。埋土は、黒褐色粘質シルト及び地山層の褐色ブロック土などが混じり合っている状況が見られた。埋土内からは、須恵器杯身・土師器片などが出土したが、細片のため実測できるものは無かった。

3層黒褐色ないし暗灰黄色砂混じり粘質シルトを除去した地山直上層で、窓地状土坑の西側に沿って、須恵器壺、高杯、杯身・蓋片、土師器把手片などが東西約5m、南北延長約25mの帶状に散在している状況が見られた（土器集中帶）。検出高はT.P. 8.50mを測る。土器集中帶に相当する掘り方や盛土の状況は確認できなかった。おそらく窓地状土坑に沿って大規模に整地等を行なった際、搬入された整地土層中に大量の遺物が含まれていたのではないかと推定される。出土遺物は、古墳時代後半から平安時代頃に相当すると考えられる。



第9図 1区遺構断面図一②

出土遺物（第10図・図版12～14）

1区では、遺物包含層及び造構内から遺物が出土した。特に、調査区西側微高地で帯状に南北方向に広がる土器集中帶から遺物が多く出土した。コンテナで約20箱分に相当する。

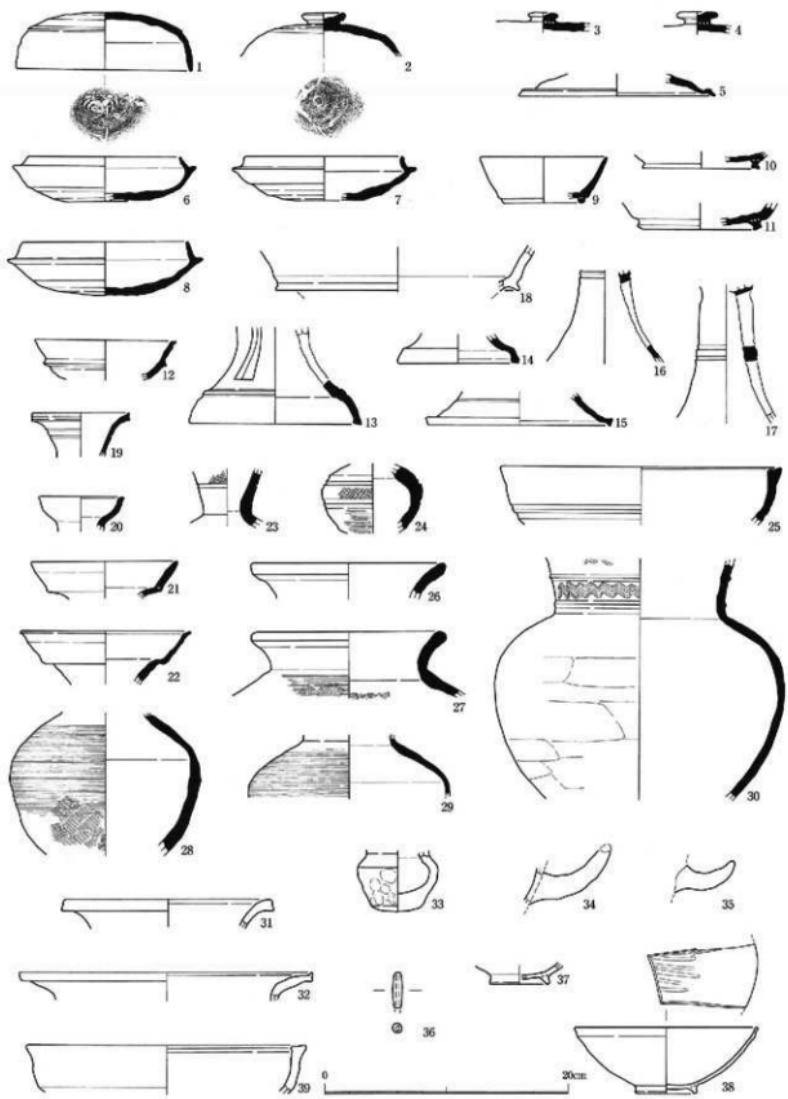
土器集中帶から出土した遺物は、須恵器杯蓋（1）、摘み付杯蓋（2～5）、杯身（6～8）、杯高台（9～11）、無蓋高杯杯部（12）、高杯脚部（13～17）、瓶口縁部（19）、甌（20～24）、器台片（25）、壺（26～30）、壺・甌片、土師器高杯杯部（18）、壺・甌口縁部（31・32）、小型丸底壺（33）、把手（34・35）、土師器椀片、杯片、皿片、壺片、黒色土器椀（37）、瓦器椀（38）などが見られた。遺物は、概ね割れて細片となっており、接合復元および、実測できるものは僅かであった。出土遺物は、一時期のものではなく時期幅が広く、概ね古墳時代後半から平安時代頃に相当するものと考えられる。

調査区南側のピット15周辺では、焼けて溶着した須恵器甌片（68・図版13）、杯片（69・図版13）、及び焼土塊（70～73・図版13）などが出土した。時期は不明である。

地山直上層では、管状土錐（36）、石礫（57～59・第20図）や石片、剥片などが出土した。時期は不明である。

Ⅲ層（3～5層）からは、須恵器高杯（62～64・図版13）、甌（65）、堤瓶把手（66）、土師器高杯脚部（67）、須恵器杯高台（98・99）、蓋（97）、摘み付蓋、土師器椀高台（89）、土師器高杯脚部（101）、黒色土器椀高台（88）、白磁碗高台（76）、白磁碗口縁部（77～79）、白磁皿（80）、青磁碗（81・82）、青磁皿（83・84）などが出土した。概ね古墳時代後半から平安時代頃に相当するものと考えられる。

さらにⅠ・Ⅱ層（1～2層）からは、土師質小皿（85～87）、瓦器椀（90）、瓦質片口鉢（91）、須恵質片口鉢（92）、土師質羽釜（93）、瓦質羽釜（94）、軒丸瓦（95・96）などが出土した。概ね中世から近世に相当するものと考えられる。



第10図 1区出土遺物実測図

2. 2区の調査（第6図・図版1・4・5）

2区は、今池処理場（現 今池水みらいセンター）内の施設、管廊B・C・Dの建設に伴う調査区で、1区の東側に近接する。調査区は、南北方向に40m、東西方向に8.5mの方形状、及び西側に機械濃縮棟との接続部として、南北方向に8.5m、西側方向に2.5mの張出し部を有する。さらに北部で東側方向に南北方向に8.5m、東側方向に2.5mの張出し部を有する。調査区の周囲は矢板で区切られている。調査区内の南部分で、昭和63年度に実施された調査区・F地区的遺構を確認した。2区の調査面積は、382.5m²を測る。

調査は、矢板の打設状況や工事の進着状況に応じて進めることから、調査区を南北に二分してまず北側調査区から調査を実施した。これに合わせて航空測量は、北側調査区と南側調査区で2回実施した。航空測量はクレーンにて行なった。

発掘調査は、平成17年11月1日に開始し、同年12月20日に終了した。

基本層序（第11図・図版4-a）

2区は、1区の西側に近接する。このため、2区の土層堆積の基本的な層序は1区と同様である。1区では、東西方向（南壁断面）の堆積状況を図示した（第7図）。2区では、南北方向（西壁断面）、及び東西方向（南壁断面）の東側への延長部分について図示した（第11図）。

0層（0層） 上層の盛土・搅乱土層。

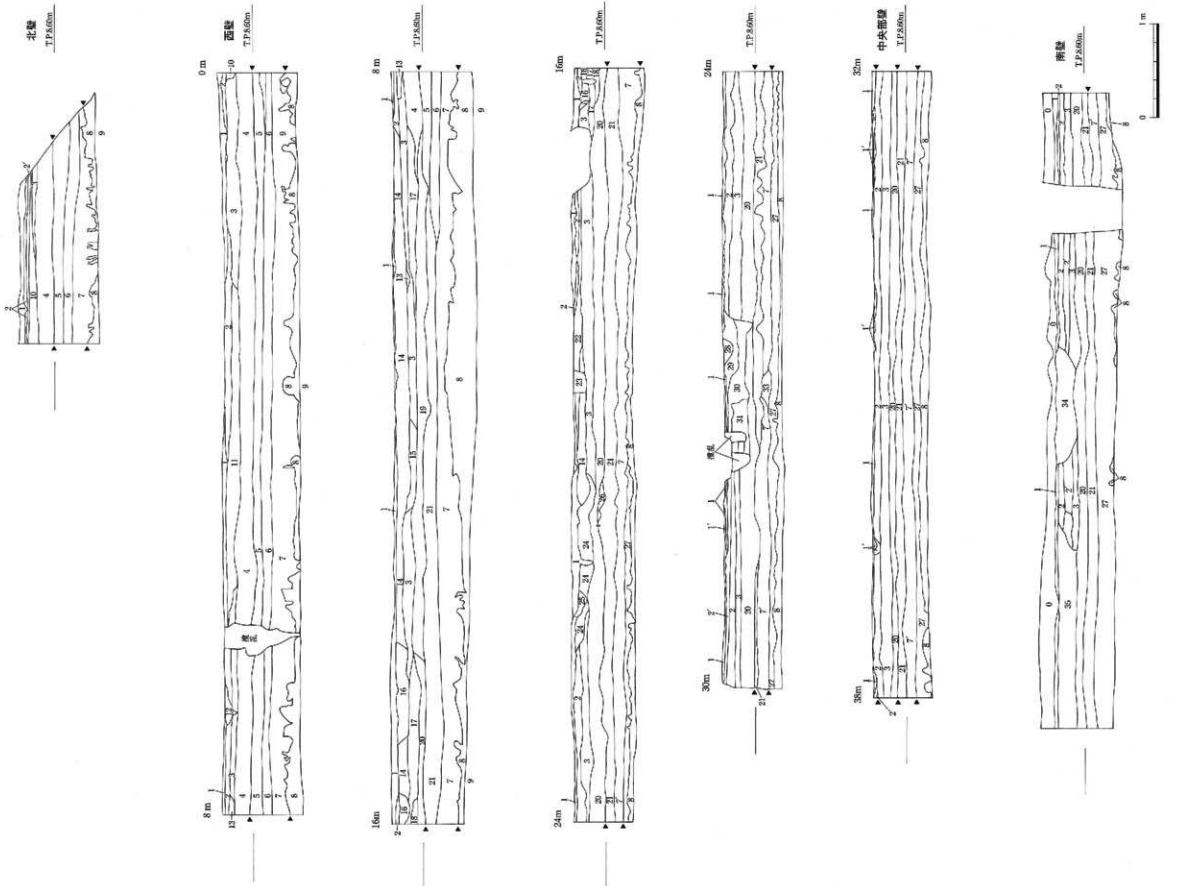
I層（1. 1'. 2. 2'層） 旧耕土及び床土層。灰オリーブ色シルトを基本とする。部分的に2～3層に細分することができる。層境に鉄分沈着する。層厚は10～15cmを測る。2層下面で第1面相当の耕作溝跡を検出した。中世から近世代に相当するものと考えられる。

II層（3. 4層） 暗オリーブ灰色砂混じりシルトを基本とする層で、層厚は10～15cmを測る。瓦器片、土師質羽釜片、土師器小皿片などが出土した。中世の耕作土層と考えられる。

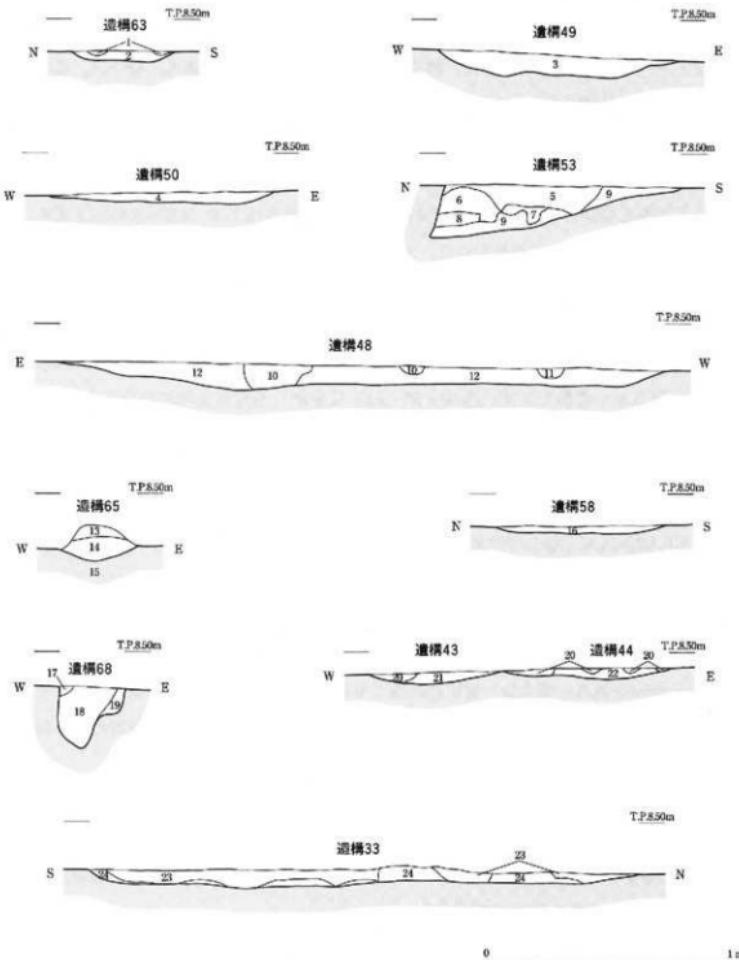
III層（5. 6. 19. 20. 21層） 黒褐色砂混じり粘質シルトを基本とする層で、部分的に2～3層に細分することができる。層厚は10～15cmを測る。須恵器杯身・杯蓋・高杯・杯・甕・壺片、土師器甕片・把手、黒色土器碗片などの細片が多く出土した。下面で第2面相当の溝、不定形土坑、畦畔などを検出した。古墳時代から平安時代にかけての堆積層と考えられる。

IV層（7. 7'. 8. 27層） 暗オリーブ灰色及び黄褐色粘質シルトを基本とする踏み込み、巻上げ層で、層中に地山層ブロック土が混じり、凹凸を成す。東側に向かって深くなる様相を示す。層厚は10～25cmを測る。須恵器小片、土師器片などが僅かに出土した。古墳時代から平安時代にかけての堆積層と考えられる。

V層（9層） 黄褐色シルトないし粘質土で、調査区内の地山層である。



第11図 2区壁断面図



層序

- | | | | |
|----|---------------------------------------|----|-----------------------------------|
| 63 | 1 黒褐色粘質土 | 63 | 13 黑褐色粘質シルト (隙込み見られる) |
| 2 | 灰黃褐色 + 灰黃褐色細砂 (ブロック状に) 組じる粘質シルト | 49 | 14 灰黃色砂混ごこち粘質シルト |
| 49 | 3 灰灰黃褐色 + 灰褐色 (ブロック状に混じる) 粘質シルト | 50 | 15 (塊山帶) 灰黃褐色 + 明黃褐色砂混じり粘質シルト |
| 50 | 4 オリーブ褐色 + 灰褐色 (ブロック状に混じる) 粘質シルト | 50 | 16 灰灰黃褐色 + 明黄褐色 (ブロック状に混じる) 粘質シルト |
| 50 | 5 黑褐色 + 灰灰褐色粘質シルト (下層に灰黃褐色粘質シルト帶状に堆積) | 50 | 17 黑褐色 + 明黃褐色 (ブロック状に混じる) 粘質シルト |
| 6 | 7 灰灰褐色 + 灰褐色 (塊山ブロック混じる) 粘質シルト | 6 | 18 黑色 + 明黃褐色 (堆積に混ざる) 粘質シルト |
| 7 | 8 灰灰褐色 + 黑褐色 (塊山ブロック混じる) 粘質シルト | 7 | 19 黑褐色 + 明黃褐色 (ブロック状に混じる) 粘質シルト |
| 8 | 9 灰灰褐色 + 黑灰色 (塊灰褐色粘質土混じる) 粘質シルト | 8 | 20 黑褐色粘質シルト |
| 9 | 10 灰黃褐色粘質シルト | 9 | 21 黃褐色 + 明黃褐色シルト |
| 10 | 11 黑褐色粘質シルト | 10 | 22 黃褐色シルト (僅かに妙混じる) |
| 11 | 12 灰黃褐色 + 明黃褐色 (ブロック状に混じる) シルト | 11 | 33 23 黑褐色 + 褐色粘質土 (隙込み) |
| | | 12 | 24 黃褐色 + 白灰色粘質シルト |

第12図 2区構造断面図

検出遺構 (第12図・図版1・4・5)

第1面 I・II層の旧耕土及び床土層を除去した下面で、東西方向に延びる鋤溝跡を検出した。検出高はT.P. 8.92mを測る。鋤溝は、幅5~10cm、長さ7~8mを測る。埋土は、黄灰色土ないし灰オリーブ色粘質シルトで、深さ2~5cmを測る。中世から近世代に相当すると考えられる。

第2面 (第12図・図版1) III層の黒褐色砂混じり粘質シルト層・IV層暗オリーブ灰色及び黄褐色粘質シルト層を掘削した下面で、遺構を確認した。検出高はT.P. 8.35~8.45mを測る。東側に向かってやや低くなる状況が見られた。主な遺構として、1区や南側から続く溝38・48~51・59~63・69、不定形土坑33~37・40~47・52~58・67・68、南北方向に延びる畦畔65などを検出した。出土した僅かな遺物から、古墳時代後半頃から平安時代頃に相当すると考えられる。

調査区南側の昭和63年度に実施された調査区F地区から延びる溝48~51は、検出幅は広いところで2.5mを測るが、北側で3条(溝49・50・51)に分岐し不定形土坑に当たり止まっている。深さは5~10cmを測る。埋土は、灰黄褐色土に黄灰色砂で、踏み込みにより地山ブロック土などが巻き上げられ混じり合う状況が見られた。埋土内からは、遺物は確認できなかった。

1区同様、大小の浅い不定形土坑33~37・40~47・52~58・67・68が見られた。掘り方は安定せず、底部は踏み込み・巻上げが著しく入り組んだ凹凸を成す。深さは10~20cmを測る。埋土は、黒褐色粘質シルトに黄褐色シルトや地山層の褐色ブロック土などが踏み込みにより乱雑に混じり合っている状況が見られた。埋土内からは、須恵器杯身・蓋、土師器壺片などが出土した。調査区の中央部から南側で南北方向に延びる畦畔65を検出した(図版4-b)。検出幅は約40cm、高さは5~10cmを測る。盛土は、黄灰色砂混じり粘質シルト上に、黒褐色粘質シルトを積み上げている。1区で検出した畦畔31と平行で、約8m離れて東側に位置する。畦畔内からは土師器小片などが出土したが、実測出来るものはなかった。

出土遺物 (図版15)

2区では、僅かであるが遺物が出土した。遺構内からもいくつか出土したが、実測できるものは無かった。コンテナで5箱分に相当する。

遺構内から出土した遺物として、須恵器杯身片・杯高台片(111)、蓋片・土師器壺片(112)、椀高台片(110)などが見られた。古墳時代後半から平安時代頃に相当するものと考えられる。

III層(5・6・19・20・21層)からは、瓦器椀片(106・109)、瓦器小皿片(107)、土師器皿片(108)などが出土した。中世に相当するものと考えられる。

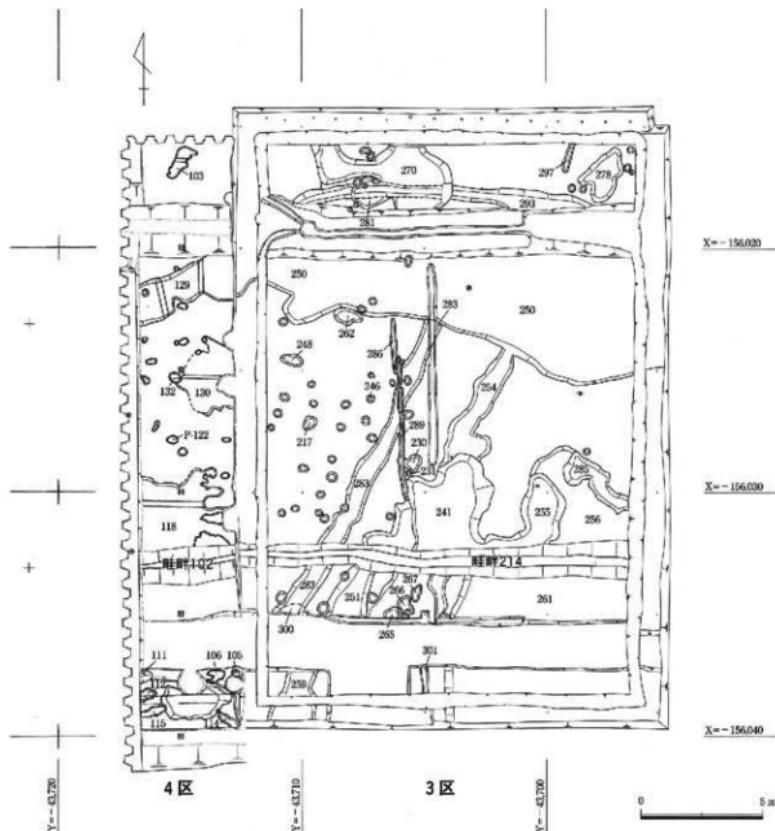
さらにI・II層(1~2層)からは、包含層から陶磁器片・瓦片・瓦質羽釜片などが出土した。瓦質片口鉢・須恵質片口鉢(105)、土師質羽釜(102・103)、瓦質羽釜(104)、軒丸瓦などが出土した。概ね中世から近世代に相当するものと考えられる。

3. 3区の調査 (第13図・図版6~9)

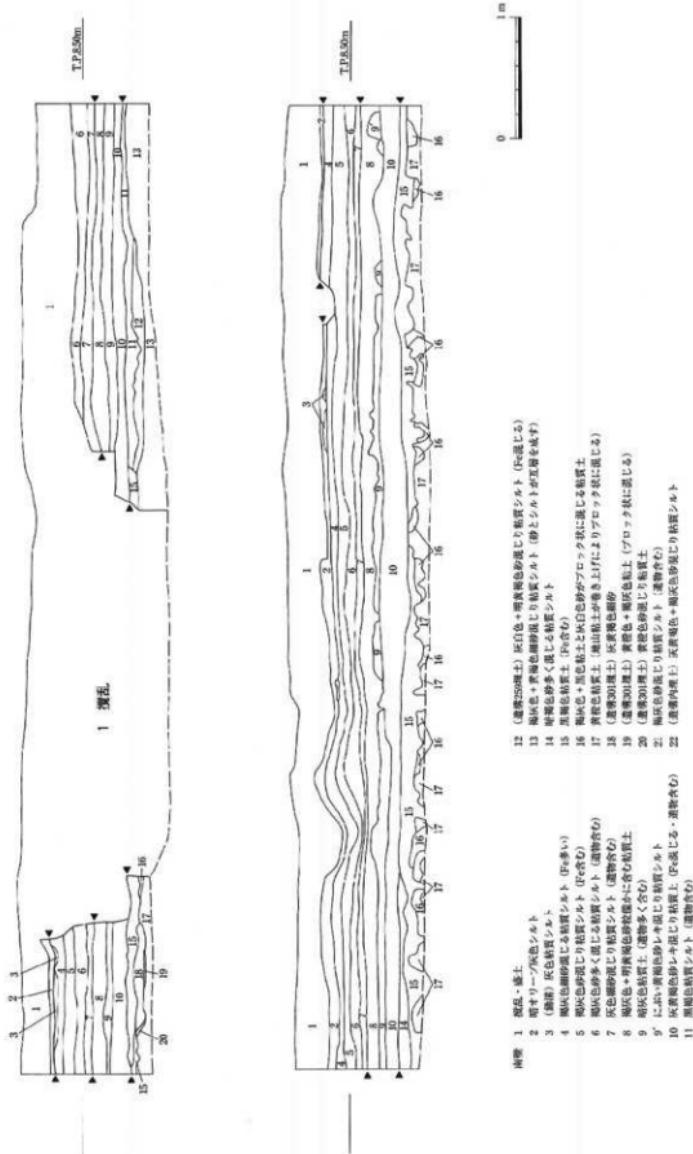
3区は、今池処理場内（現 今池水みらいセンター）内の施設、焼却炉棟の建設に伴う調査区である。今池処理場内の北部で、汚泥処理棟の北側、今井戸系雨水ポンプ棟と松原市焼却炉棟の間に位置する。3区周辺では、現地表面以下約4mの厚さで土砂や産業廃棄物などが埋められているため、現地表面から旧耕土層までを傾斜1:1勾配の法面を設けながら掘削した。この結果、調査区西側の松原市焼却炉棟との間の法面直下部分（東西方向約5m）については、次年度に調査区（4区）周辺を矢板で囲んだ後、発掘調査を行なうことになった。

3区の調査範囲は、焼却炉棟東部分で南北方向23.5m、東西方向16mの方形状を対象とした。面積は、376m²を測る。航空測量は、ヘリコプターにて実施した。

発掘調査は、平成17年12月21日に開始し、平成18年3月10日に終了した。



第13図 3区・4区透構平面図



基本層序 (第14図)

3区周辺では、現地表面以下約4mの厚さで今池処理場内の施設築造工事で発生した土砂や産業廃棄物などが埋められていた。この部分では、発掘調査前に事業者側で現地表面 (T.P. 13.0m) から旧地表面までを傾斜1:1勾配の法面を設けながら重機にて掘削することとなった。その後旧耕土層 (T.P. 9.2~9.0m) を文化財保護課側で重機にて掘削することとなった。

土層断面は旧耕土層除去後のものである。

0層（0層） 盛土・搅乱土層。

I層（1~3層） 旧耕土層及び床土層。暗オリーブ灰色シルトを基本とする層で、部分的に複数層に分けることができる。層間に鉄分が沈着する。層厚は5~10cmを測る。2層下面で第1面相当の耕作溝跡（3層）を検出した。中世から近世に相当するものと考えられる。

II層（4~5層） 褐灰色及び茶灰色砂混じり粘質シルトを基本とする層で、数層に細分することができる。層厚は10~20cmを測る。瓦質三足羽釜片、須恵器片口鉢片、青・白磁片・陶磁器片などが出上した。中世から近世の耕作土層と考えられる。

III層（6~7層） 褐灰色ないし暗灰色砂混じり粘質シルトを基本とする層で、層厚は10~15cmを測る。瓦器碗・小皿片、瓦質羽釜片、土師質羽釜片、須恵質鉢片など多くの遺物が出土した。中世の耕作土層と考えられる。下面で第2面相当の耕作溝跡、東西方向の畦畔を検出した。

IV層（8~9~10層） 褐灰色粘質土に黄褐色砂・小砂レキが混じる層を基本とする。部分的に複数層に細分することができる。耕作地をするあたり土砂を搬入し、盛るなどした整地層と考えられる。層厚は30~35cmを測る。須恵器杯身・杯蓋・高杯・杯・甕・甕片・土師器高杯片・甕・甕片・把手、黒色土器碗片などの細片が多く出土した。古墳時代から平安時代にかけての遺物を含むと考えられる。下面で第3面相当の溝、不定形土坑、流路などを検出した。

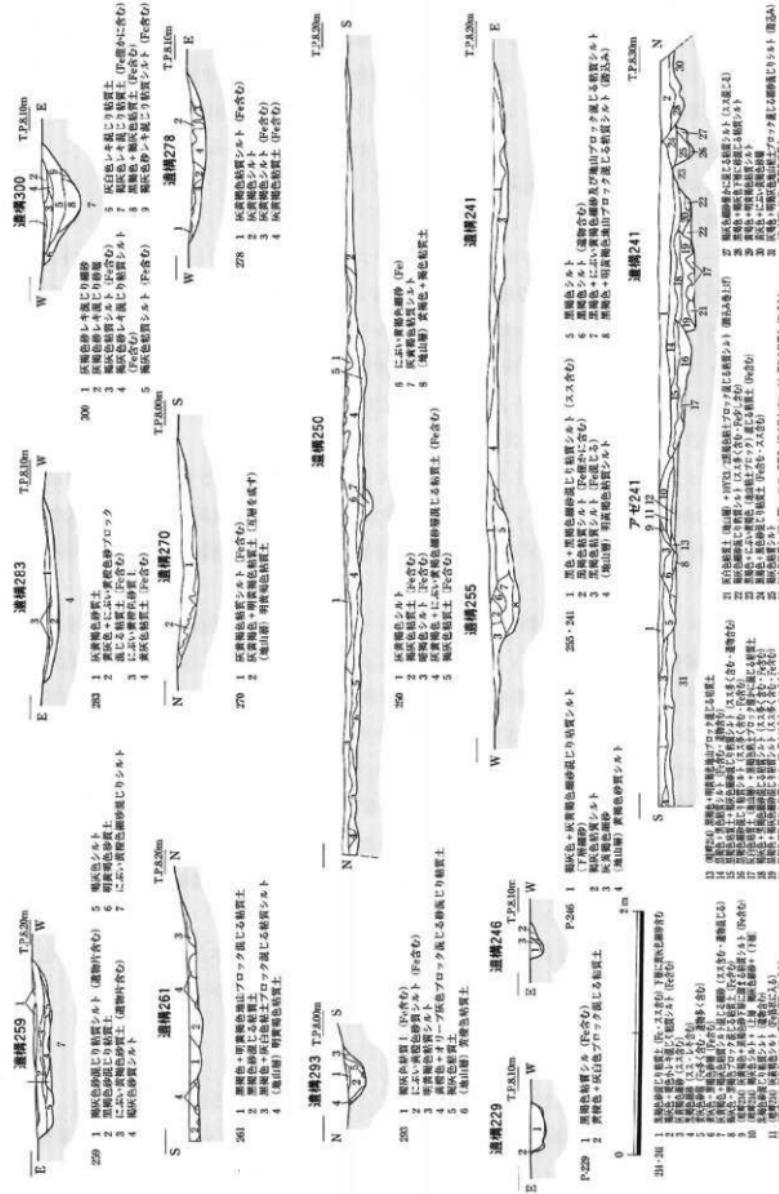
V層（11~13層） 黒茶褐色~灰黄褐色砂混じり粘質シルトを基本とする踏み込み、巻上げ層で、層中に地山層ブロック上が混じり、底面は凹凸を成す。層厚は10~15cmを測る。須恵器杯身・杯蓋片、高杯片、土師器甕片などが出土した。古墳時代後半頃の堆積層と考えられる。

VI層（14~15層） 明黄褐色粘質土で、調査区内の地山層である。

VII層（34~43層） 褐灰色および黄褐色細砂混じり粘質シルト層を基本とする層で、褐灰色、黒褐色砂レキ上が堆積する下層河川内埋土である。遺物は確認できなかった。

検出遺構 (第15図・図版7~9)

第1面 I層の旧耕土及び床土層を除去した下面で、南北方向に延びる鋤溝跡を検出した。検出高は、T.P. 8.71mを測る。鋤溝は、検出幅5~10cm、長さ2~4mを示す。埋土は、黄灰色土、灰色粘質シルトで、深さ2~5cmを測る。包含層から陶磁器片、瓦質片口鉢片、瓦器碗片などが出上していることから、中世から近世代に相当すると考えられる。



第15図 3区構造断面図

第2面（図版7-a） II層（4・5層）褐灰色及び茶灰色砂混じり粘質シルト、III層（6・7層）褐灰色ないし暗灰色砂混じり粘質シルト層を除去した下面で、第2面相当の耕作溝跡と南北方向の畦畔を検出した。検出高はT.P. 8.35～8.37mを測る。検出幅15～30cm、全長8～10mを示す。埋土は、暗灰黄色土、にぶい黄褐色細砂混じり粘質シルトで、深さ2～5cmを測る。埋土内から、土師器皿片、瓦器腕片などが出土した。耕作土層は、概ね中世に相当すると考えられる。

調査区の西側寄り部分で鋤溝と同じく南北方向を示す畦畔を検出した。検出高はT.P. 8.33～8.36mを測る。畦畔の検出幅は0.7～1.5m、南北方向の延長27mを測る。畦畔の上層は削平されており、畦畔の形状、高まりを確認することはできなかった。畦畔に伴う遺物は出土しなかった。第3面（第15図・図版7-b） IV層（8～10層）褐灰色粘質土に黄褐色砂・砂レキが混じる堆積土層を除去した下面で、第3面相当の遺構を検出した。検出高はT.P. 8.00～7.95mを測る。北東方向に向かって低くなる。

畦畔214（図版8-a・b）は、東西方向に延びるもので、検出幅が頂部で0.7m、底辺で2.5m、高さは30～40cmを測る。検出高はT.P. 8.0mである。断面では、基本層序V層の踏み込み、巻上げ層上に灰黄褐色粘質土をベース層とし、黒褐色・褐灰色・灰黄褐色砂質シルトなどを盛上げ、形造っていることが観察できた。盛土内から、須恵器杯蓋片（140）、土師器片、黒色土器片・石鑓（60）などが出土した。古墳時代後半頃から平安時代頃に相当すると考えられる。第3面で検出しているが、溝や不定形土坑などを整地し耕作地化する際に作られたものと考えられる。

南西から東北方向に延びる溝（251・254・259・283他）（図版8-c・f）、調査区北部で東西方向に広がる落ち込み250に流れ込んでいる。溝283・溝259は、検出幅が約1.5m、深さ15～20cmを測る。常に流水していたものではなく、一時的な流れあるいは溜水状態であったと推測される。溝の西側がやや高くなることから、東側の低地部と画する溝ではないかと考えられる。埋土内から、土師器甕片、須恵器杯身（141）・高台（144）などが出土した。

ピット（215～240・246他）は、僅かに高くなる調査区西側部で検出した。検出高はT.P. 8.0mである。検出径30～40cmを測る。溝283などと軸を同一方向にする建物のピットであったと推測される。ピット内からは、土師器小片、須恵器片などが出土している。

不定形土坑（241・255・256・261・270・278）（図版8-a・b）は、溝283・254の東側、又は北側の低地部に位置する。検出高はT.P. 7.9mである。窪地状に広がる不定形土坑の底面では、牛や人の足跡が無数に見られた。埋土では、黒褐色粘質シルト層に踏み込みにより褐灰色土、黄灰褐色土、黄橙色粘土層が複雑に混じり合う状況が見られた。埋土の深さは概ね10～15cmであるが、窪地部分では30～50cmの深さを測る。埋土内からは、須恵器杯身・杯蓋（40・41・42）・高杯脚部（44）、無蓋高杯（142）、壺口縁部（43）、土師器高杯（137・138）・甕片・小型丸底甕などが出土した。古墳時代後半頃の堆積層と考えられる。

落ち込み250は、溝（259・283他）が流れ込む浅い落ち込みで、東西方向に広がる。検出幅は

2~6m・10~30cmを測る。埋土は、褐灰色および暗褐灰色粘質土に黄褐色細砂が混じる。埋土内から、土師器甕片・須恵器杯片などが出土した。古墳時代後半頃の堆積層と考えられる。

第4面（図版9-e・f） V層（11・15・16層）黒茶褐色～褐灰色粘質土を基本とする踏み込み、巻上げ層を掘り下げるに、下層から河川堆積層が見られた。調査区の西側に近接する平成8年度調査実施の第2調査区（松原市焼却炉棟『大和川今池遺跡発掘調査概要XIV』1997.3）で検出された河川跡に続くものとみられる。調査区内で確認できた旧河川跡の上面の幅は僅かであるが、河川幅は10m以上、深さは1m以上を測る。VI層（13層）褐灰色および黄褐色細砂混じり粘質シルト層を基本とする黄褐色砂が厚く堆積する。遺物は出土しなかった。平成8年度実施の第2調査区では河川跡は弥生時代に相当するとしている。

出土遺物（図版15・16）

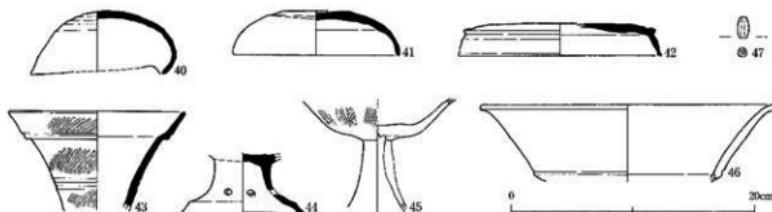
3区では、包含層から遺物が多く出土したが、実測できるものは少なかった。コンテナで20箱分に相当する。

遺構内から出土した遺物として、東西方向の畦畔盛土内から須恵器杯蓋片（140）、黒色土器片などが出土した。溝259では、土師器甕片・須恵器杯身（141）・高台（144）などが出土した。不定形土坑241・257・295・296からは、須恵器杯身・杯蓋（40・41・42）・高杯脚部（44）・無蓋高杯（142）・甕（143）・壺口縁部（43）・土師器高杯（137・138）・甕片・小型丸底壺などが出土した。概ね、古墳時代後半頃から平安時代頃の様相を呈する。

IV・V層からは、須恵器摘付き蓋（127・128）、器台（126）、土師器高杯（45・46・129）、土師器壺・甕片（131~136）、小型丸底壺（130）、管状土錐（47）などが出土した。古墳時代後期から平安時代頃に相当するものと考えられる。

III層からは、瓦器椀片（120・121・123~125）、瓦器小皿片（122）、土師器皿片などが出土した。中世に相当するものと考えられる。

I・II層からは、陶磁器片・瓦片・瓦質羽釜片（113・114）、瓦質片口鉢（116）、須恵質片口鉢（117・118）、土師質羽釜（115）、土師器甕片（119）軒丸瓦片などが出土した。概ね中世から近世代に相当するものと考えられる。



第16図 3区出土遺物実測図

4. 4区の調査 (第13図・図版10・11)

4区は、今池処理場内（現 今池水みらいセンター）内の施設、焼却炉棟西側部の建設に伴う調査区である。今池処理場用地内の北部で、汚泥処理棟の北側、今井戸系雨水ポンプ棟と松原市焼却炉棟の間に位置する。調査地周辺では、現地表面以下約4mの厚さで土砂や産業廃棄物などが埋められている。平成17年度に実施した焼却炉棟の東側部（3区）については、現地表面から旧耕土層までを傾斜1:1勾配の法面を設けながら掘削することとなった。このため、調査区西側の松原市焼却炉棟との間の法面直下部分（東西方向約5m）の調査を行なうことができなかつた。本来、昨年度実施した3区の調査の際に調査ができなかつた部分を4区としたものである。

4区は、周囲を矢板で囲んだ後、調査を行なった。調査範囲は、南北方向23.5m、東西方向5mの方形状状である。面積は、118m²を測る。航空測量は、ヘリコプターにて実施した。

発掘調査は、平成18年6月28日に開始し、平成18年8月10日に終了した。

基本層序 (第17図)

4区土層の基本層序は3区と同様である。4区では、南北方向（西壁断面）について図示した。

I層（1・2層） 旧耕土層及び床土層。褐灰色粘質シルトを基本とする層である。層厚は10cmを測る。瓦質三足羽釜片、須恵器片口鉢片、陶磁器片などが出土した。2層下面で第1面相当の耕作溝跡を検出した。中世から近世に相当するものと考えられる。

II層（3・4層） 褐灰色及び黒褐色粘質シルトを基本とする層である。層厚は20cmを測る。瓦器楕・小皿片、瓦質羽釜片、土師質羽釜片、須恵質鉢片などの遺物が出土した。下面で第2面相当の耕作溝跡を検出した。中世から近世の耕作土層と考えられる。

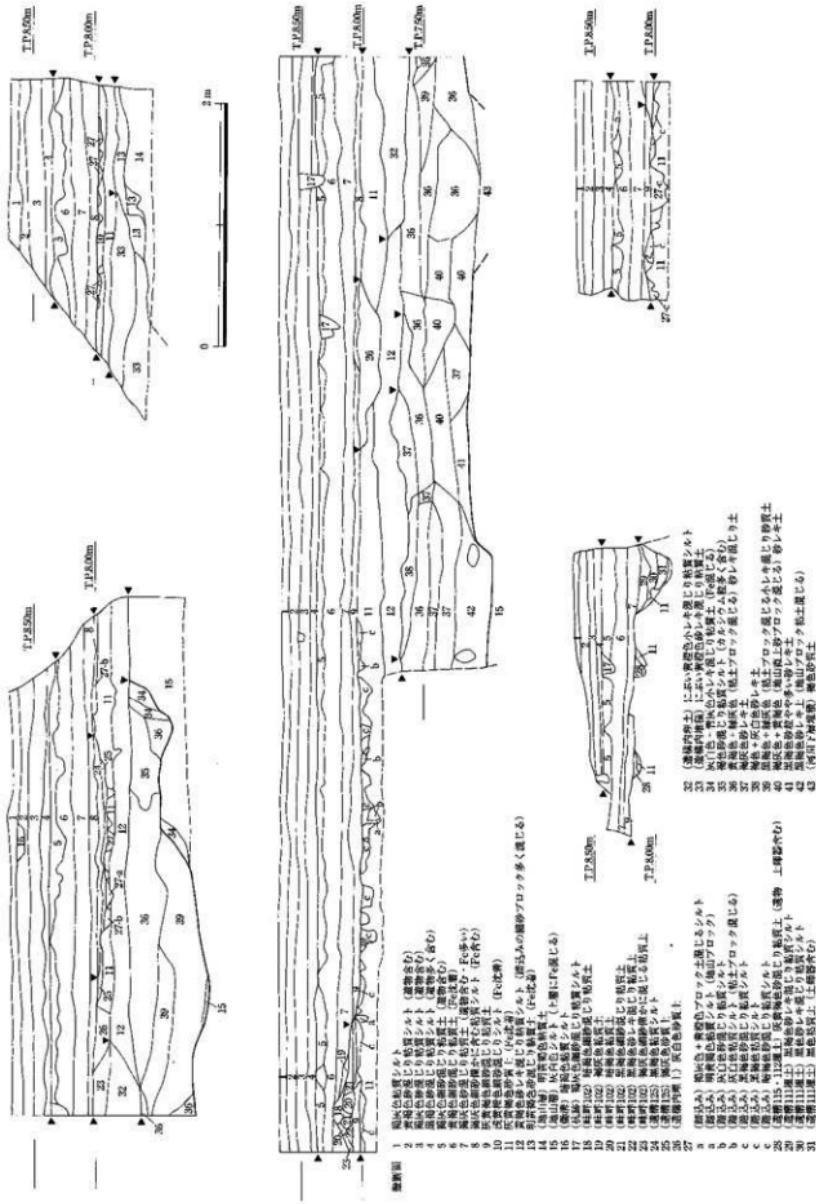
III層（5・6層） 褐灰色纖砂混じり粘質土を基本とする層で、層厚は30cmを測る。瓦器楕・小皿片、瓦質羽釜片、土師質羽釜片、須恵質鉢片などの遺物が出土した。中世代の耕作土層と考えられる。

IV層（7～9層） 褐灰色粘質土に砂混じる層を基本とする層で、整地層と考えられる。層厚は30～35cmを測る。須恵器杯身・杯蓋・高杯・杯・甕・甕片・土師器高杯片・壺・甕片・把手、黒色土器楕片などが出土した。古墳時代から平安時代に相当するものと考えられる。下面で第3面相当の溝、不定形土坑などを検出した。

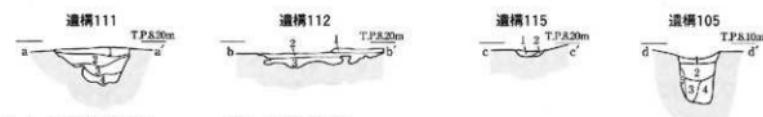
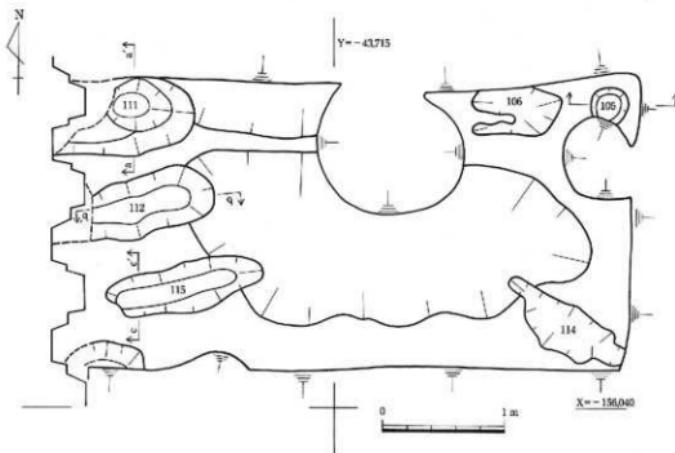
V層（10～12・27層） 黒茶褐色～浅黄橙色粘質土を基本とする踏み込み、巻上げ層である。底面は凹凸を成す。層厚は20cmを測る。須恵器杯身・杯蓋片・高杯片・土師器甕片・小型丸底壺などが出上した。古墳時代後半頃の堆積層と考えられる。

VI層（14・15層） 明黄褐色粘質土で、調査区内の地山層である。

VII層（31～43層） 褐灰色および黄褐色細砂混じり粘質シルト層を基本とする層で、砂層とシルト層が互層を成す下層河川内埋土である。遺物は確認できなかつた。



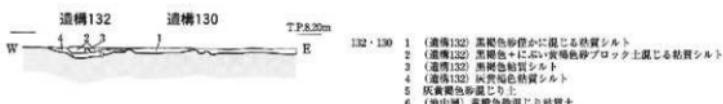
第17図 4区西壁断面図



- 111 1 黒灰色泥じり粘質土
(カルシウム没多く含む)
2 黒褐色、小レクマ泥じり粘質シルト
(カルシウム没多く含む)
3 黑褐色、泥じり粘質シルト
4 黑褐色土(カルシウム没多く含む)
5 (地山層) 黒白色泥じり粘質土
- 112 1 黒褐色粘質シルト
2 黑褐色(粘質)シルト(遺物含む)
3 黑褐色+黄褐色粘土ドロック
泥じるシルト(鉛込)
4 (地山層) 黄褐色沙質土
- 115 1 黒色+黄灰色ブロック土混じる泥じり粘質シルト
2 黄褐色
3 黄褐色ブロック土混じる砂質土
3 (地山層) にぶい黄褐色土
- 105 1 黒色泥じり粘質土
2 黑褐色粘質シルト(遺物混じる)
3 黑褐色泥じり粘質シルト
4 黑褐色+灰黃褐色ブロック土混じる粘質シルト
(下層に砂ブロック土多い)
5 (地山層) 黄褐色粘質土



- 110 1 にぶい黒褐色粘質シルト(Fe多い)
2 黑褐色粘質シルト(Fe多い)
3 灰黃褐色泥じりシルト
4 黑褐色粘質シルト
5 黑褐色砂かに似る粘質シルト
6 暗褐色粘質シルト
7 灰黃褐色泥じりシルト
8 (地山層) 黄褐色泥じり粘質土



- 132・130 1 (造構132) 黑褐色粘質土に混じる粘質シルト
2 黑褐色粘質シルト(Fe多い)
3 (造構132) 黑褐色粘質シルト
4 (造構132) 黑褐色粘質シルト
5 灰黃褐色泥じり土
6 (地山層) 黄褐色泥じり粘質土



- 129 1 黄褐色砂質土
2 黄褐色砂洗じり粘質土

第18図 4区造構断面図

検出遺構 (第15図・図版10・11)

第1面 I層の旧耕土及び床土層を除去した下面で、南北方向に延びる鋤溝跡を検出した。検出高は、T.P. 8.67mを測る。上層の搅乱の為北側の一部で遺構を確認することができた。鋤溝は、検出幅5~10cm、長さ2~4mを示す。埋土は、黄灰色土、灰色粘質シルトで、深さ2~5cmを測る。包含層から陶磁器片、瓦質三足羽釜片、東播系片口鉢片、瓦片などが出土している。中世から近世代に相当すると考えられる。

第2面 (図版10-a) II層(3・4層)褐灰色及び黒褐色粘質シルト、III層(5・6層)褐灰色細砂混じり粘質土層を除去した下面で、第2面相当の耕作溝跡を検出した。検出高はT.P. 8.35mを測る。検出幅15~30cm、全長約7mを示す。埋土は、黄褐色細砂混じり粘質シルトで、深さ2~5cmを測る。埋土内から、土師器皿片、瓦器碗片、瓦質三足羽釜片などが出土した。耕作土層は、概ね中世に相当すると考えられる。

第3面 (第18図・図版10-b) IV層(7~9層)褐灰色粘質土に黄褐色砂混じる堆積土層を除去した下面で、東西方向の溝や不定形土坑、ピット、土坑など第3面相当の遺構と須恵器杯身・杯蓋、土師器片などを検出した。検出高はT.P. 8.00~7.95mを測る。概ね古墳時代後半頃の様相を示す。

畦畔102 (第18図・図版11-a・c) は、3区から東西方向に延びるもので、検出幅が頂部で0.7m、底辺で2.5m、高さは30~40cmを測る。検出高はT.P. 8.0mである。盛土内から、須恵器杯片、鉢片(50)、土師器片などが出土した。古墳時代後半から平安時代に相当すると考えられる。

溝129 (図版11-b) は、3区で検出した落ち込み250に注ぎ込む溝である。検出幅は1.8mを測る。埋土は、褐灰色および砂黄橙色砂質土で約5cmの深さを示す。埋土内からは、土師器片などが出土したが実測に耐えるものは無かった。

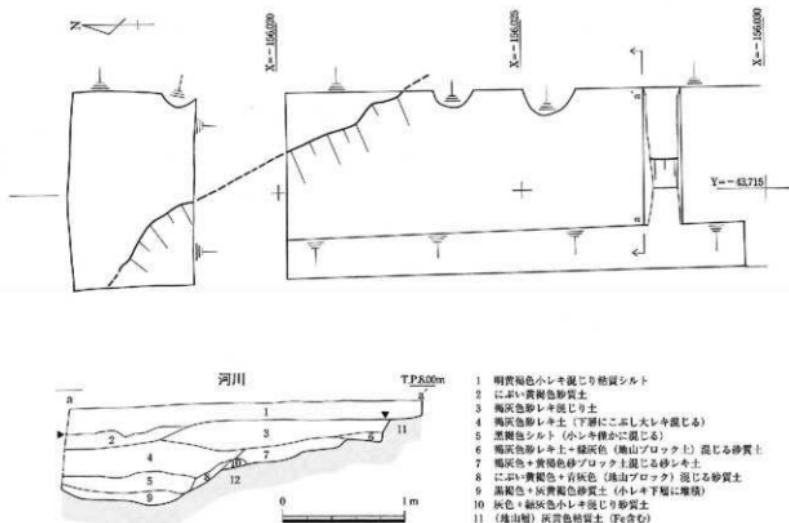
不定形土坑(118・130)は、浅く広がるもので、底面には牛や人の足跡が見られた。埋土は、黒褐色粘質シルトに灰黄褐色砂混じり土が混じる。深さは5cmを測る。埋土内からは、土師器片、須恵器片などが見られた。

土坑(111・112・115他) 調査区の南側隅で幾つか土坑を検出した。

土坑111は溝状の形態を示すが一部で深い掘り方を持つもの。埋土は黒灰色ないし黒色砂・砂レキ混じり粘質シルトで、深さは約30cmを測る。埋土内からは、土師器片などが出土した。

土坑112・土坑115は溝状にやや長い形態を示す。埋土は、黒褐色ないし黒色粘質シルトに踏み込みによる黄褐色土のブロック土を含む。深さは約10cmを測る。埋土内からは、土師器片、須恵器杯身片、須恵器鉢片(50)などが出土した。

ピット105 調査区の南側東部で検出した。検出径30cm、深さ50cmで筒状の掘り方となる。埋土は、黒色ないし暗灰黄色砂混じる砂質土である。ススなどが含まれている。遺物は出土しなかった。



第19図 4区河川平・断面図

第4面 V層（10～12・27層）黒茶褐色～浅黄橙色粘質土を基本とする踏み込み、巻上げ層を掘り下げるとき、下層から河川堆積層が見られた。埋土内から遺物は確認できなかった。

下層河川（第19図） 調査区北側部で南東から北西方向に肩部が延びる河川跡である。調査区の西側に近接する平成8年度調査実施の第2調査区（松原市焼却炉棟「大和川今池遺跡発掘調査概要XIV」1997.3）で検出された河川跡に統くものとみられる。調査区内で確認できた旧河川跡の上面の幅は僅かであるが、河川幅は10m以上、深さは1m以上を測る。V層（31～43層）褐灰色および黄褐色細砂混じり粘質シルト層を基本とする黄褐色砂が厚く堆積する。遺物は出土しなかった。平成8年度実施の第2調査区では河川跡は弥生時代に相当するとしている。

出土遺物 (図版20・図版18)

4区では、包含層から遺物が多く出土したが、実測できるものは少なかった。コンテナで5箱分に相当する。

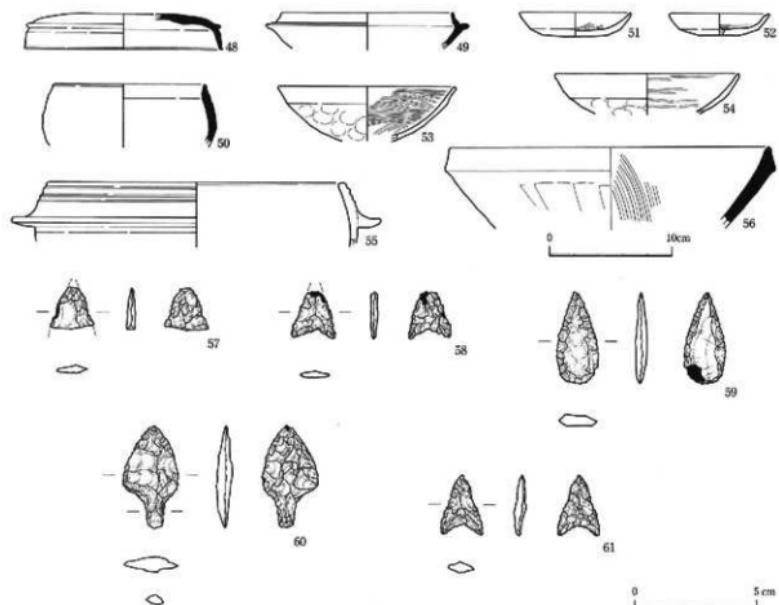
遺構内から出土した遺物として、第3面の土坑112からは、須恵器鉢片(50)が出土している。第2面の遺構43からは、瓦質三足羽釜片(146)、遺構71からは、瓦器椀(54)が出土した。

第2面は出土した遺物から中世の様相を呈する。

IV・V層の包含層からは、須恵器杯蓋(48)、土師器壺片などが出土した。

III層の包含層からは、須恵器杯身(49)、瓦器椀片、瓦器小皿(51・52)、土師器小皿(152・153)、瓦質羽釜(55)、瓦質三足羽釜片(147~151)などが出土した。概ね、中世代に相当するものと考えられる。

II層の包含層からは、須恵器婧壺(154)、須恵質り鉢(56)などが出土した。中世から近世代に相当すると考えられる。



第20図 4区出土遺物・各区出土石器実測図

第3章 まとめ

今回の調査では、上層面では中世および近世代に相当する耕作溝を検出した。下層面では、南北方向あるいは東西方向に延びる畦畔を検出した。そのほか、南側から北側に延びる溝と南北方向の溝から北側へと一気に広がる窪地状土坑、下面に夥しい足跡や踏み込み痕を残す不定形土坑やピットなどを検出した。3・4区では、さらに下層から、旧河川跡を確認した。しかしながら、全体に遺構は希薄で少ない様相を示す。

1区の南側では、昭和63年度に発掘調査を実施した調査区D・E区（『大和川今池遺跡発掘調査概要VI』1990.3）で検出された溝の続きを確認することができた。これらの溝は、調査区D・E区内では奈良時代（8世紀中葉）に相当するとされている。この時期に相当する遺構として、溝や不定形土坑のほかに、掘立柱建物、井戸、土坑などで構成される集落が検出されている。さらに、南西側に近接する昭和62年度に発掘調査を実施した沈殿池地区（『大和川今池遺跡発掘調査概要V』1988.3）では、古墳時代中期頃や古墳時代後期頃、また、奈良時代から平安時代頃の掘立柱建物や井戸、土坑などで構成される集落が確認されている。唯一、1区西側微高地上で帶状に南北方向に広がる土器集中帯からは生活遺構に伴う遺物が多く出土した。近接地に集落域があることがうかがえる。しかしながら、今回の調査区においては、生活遺構としての建物跡や井戸などは検出されなかった。3・4区で僅かにピットを幾つか検出したが、建物を復元するには至らなかった。今回の調査区では、東西方向あるいは南北方向の畦畔に伴う耕作地化として整地・開発されるまでは、不定形土坑や溝などがみられるやや荒蕪した地域であったと考えられる。旧西除川や近隣の河川による氾濫や洪水などの影響によって、この地周辺が湿地状態になっていた時期があったものと推測される。

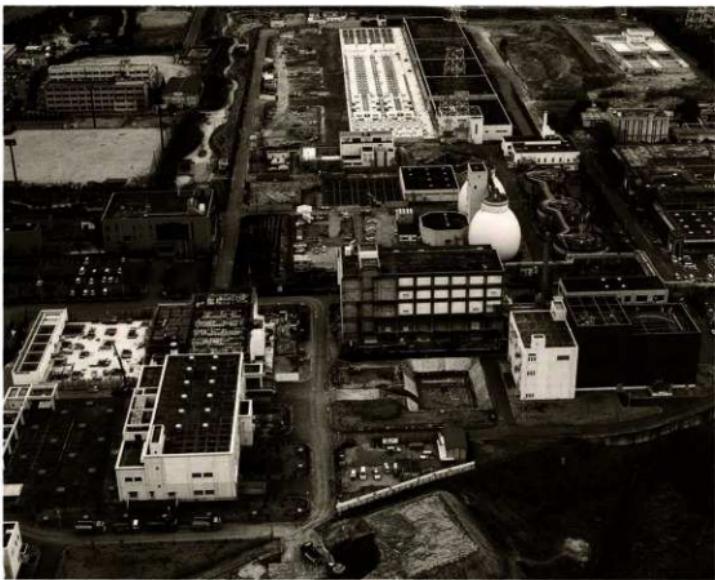
奈良時代から平安時代頃（8世紀中葉～9世紀初頭）には、調査区の西側で当時の交通・流通の大動脈ともいえる「難波大道」が南北方向に延びている。また、依網池開発による依網屯倉の経営との関係なども含め、何時頃、調査地周辺の開発が行なわれたのだろうか。「難波大道」の設置とその周辺地域の開発状況や周辺環境の復元を考える上で、周辺に集落域や生産域が存在することは、貴重な資料になるものと考えられる。

今後の周辺地域での調査がすすむにつれて、判明してくるものと思われる。今後の調査成果に期待したい。

表1 出土遺物対照表

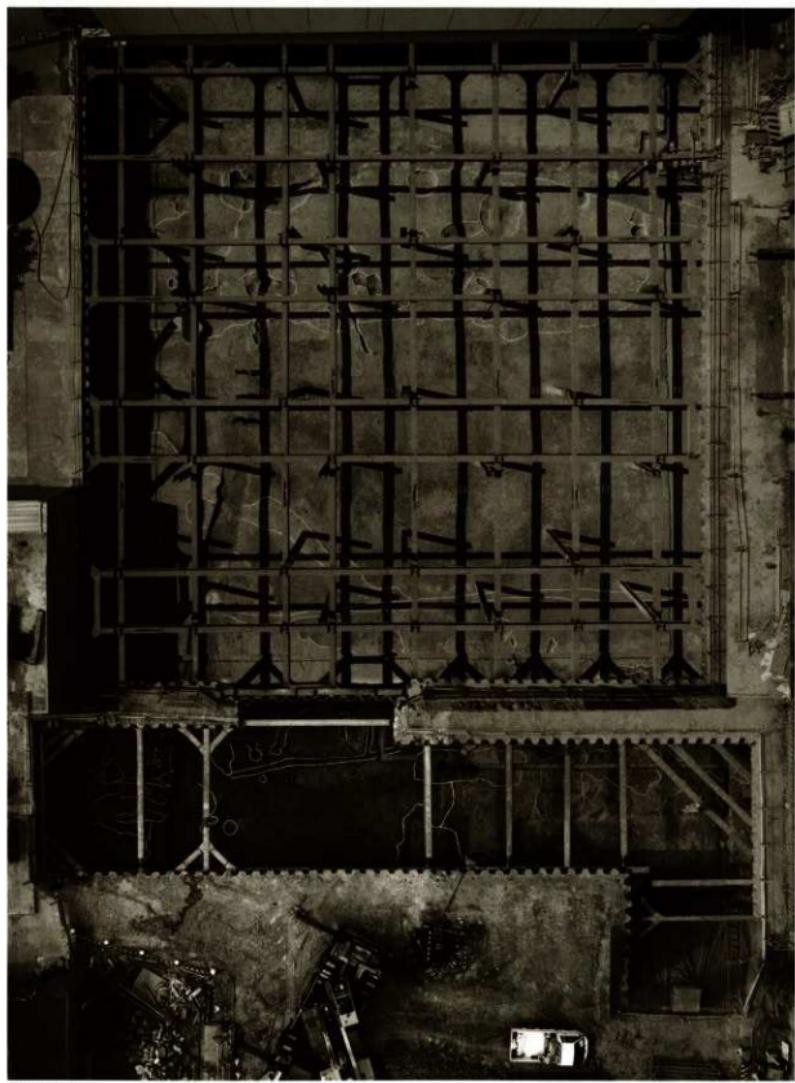
番号	種類	國版	種類	器種	地区	出土地	実測値	番号	種類	國版	種類	器種	地区	出土地	実測値
1	第10回	圓盤12	須恵器	杯蓋	1区	土器裏中等	16	78	—	國版14	白磁	碗	1区	包含層	—
2	第10回	圓盤12	須恵器	杯蓋	1区	土器裏中等	15	79	—	國版14	白磁	碗	1区	包含層	—
3	第10回	圓盤12	須恵器	杯蓋	1区	土器裏中等	37	80	—	國版14	白磁	碗	1区	包含層	—
4	第10回	—	須恵器	杯蓋	1区	土器裏中等	26	81	—	國版14	青磁	碗	1区	包含層	—
5	第10回	—	須恵器	杯蓋	1区	土器裏中等	30	82	—	國版14	青磁	碗(高台)	1区	包含層	—
6	第10回	圓盤12	須恵器	杯身	1区	土器裏中等	14	83	—	國版14	青磁	盤	1区	包含層	—
7	第10回	—	須恵器	杯身	1区	土器裏中等	53	84	—	國版14	青磁	盤	1区	包含層	—
8	第10回	圓盤12	須恵器	杯身	1区	土器裏中等	17	85	—	國版14	土師器	小皿	1区	包含層	—
9	第10回	—	須恵器	杯	1区	土器裏中等	26	86	—	國版14	土師器	小皿	1区	包含層	—
10	第10回	—	須恵器	杯(高台)	1区	土器裏中等	29	87	—	國版14	土師器	小皿	1区	包含層	—
11	第10回	—	須恵器	杯(高台)	1区	土器裏中等	25	88	—	國版14	高台土器	碗(高台)	1区	包含層	—
12	第10回	—	須恵器	高台土器	1区	土器裏中等	33	89	—	國版14	土師器	碗(高台)	1区	包含層	—
13	第10回	圓盤12	須恵器	高杯(脚無)	1区	土器裏中等	19	90	—	國版14	瓦質	片口鉢	1区	包含層	—
14	第10回	—	須恵器	高杯(脚無)	1区	土器裏中等	35	91	—	國版14	瓦質	片口鉢	1区	包含層	—
15	第10回	—	須恵器	高杯(脚無)	1区	土器裏中等	36	92	—	國版14	須恵質	片口鉢	1区	包含層	—
16	第10回	—	須恵器	高杯(脚無)	1区	土器裏中等	50	93	—	國版14	土師質	羽釜	1区	包含層	—
17	第10回	—	須恵器	高杯(脚無)	1区	土器裏中等	39	94	—	國版14	瓦質	羽釜	1区	包含層	—
18	第10回	—	土師器	高环手鉢	1区	土器裏中等	59	95	—	國版14	瓦質	羽釜瓦	1区	包含層	—
19	第10回	—	須恵器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	27	96	—	國版14	瓦	耳瓦五	1区	包含層	—
20	第10回	—	須恵器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	34	97	—	國版14	須恵器	皿	1区	包含層	—
21	第10回	—	須恵器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	31	98	—	國版14	須恵器	杯(高台)	1区	包含層	—
22	第10回	—	須恵器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	24	99	—	國版14	須恵器	杯(高台)	1区	包含層	—
23	第10回	—	須恵器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	55	100	—	國版14	?	鉢	1区	包含層	—
24	第10回	圓盤12	須恵器	皿(体鉢)	1区	土器裏中等	51	101	—	國版14	土師器	高杯(脚無)	1区	包含層	—
25	第10回	—	須恵器	皿(脚無)	1区	土器裏中等	56	102	—	國版15	土師質	羽釜(口縁)	2区	包含層	—
26	第10回	—	須恵器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	22	103	—	國版15	土師質	羽釜(口縫)	2区	包含層	—
27	第10回	—	須恵器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	54	104	—	國版15	瓦質	羽釜(口縫)	2区	包含層	—
28	第10回	圓盤12	須恵器	皿	1区	土器裏中等	21	105	—	國版15	須恵質	片口鉢	2区	包含層	—
29	第10回	—	須恵器	皿	1区	土器裏中等	22	106	—	國版15	瓦質	片口鉢	2区	包含層	—
30	第10回	圓盤12	須恵器	皿	1区	土器裏中等	18	107	—	國版15	瓦質	片口鉢	2区	包含層	—
31	第10回	—	土師器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	57	108	—	國版15	土師質	小皿	2区	包含層	—
32	第10回	—	土師器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	61	109	—	國版15	瓦質	碗(高台)	2区	包含層	—
33	第10回	—	土師器	皿(口縁)	1区	土器裏中等	58	110	—	國版15	土師器	碗(高台)	2区	包含層	—
34	第10回	圓盤12	土師器	把手	1区	土器裏中等	62	111	—	國版15	須恵器	杯(高台)	2区	包含層	—
35	第10回	圓盤12	土師器	把手	1区	土器裏中等	63	112	—	國版15	土師器	長柄湯匙	2区	包含層	—
36	第10回	圓盤12	土師器	把手	1区	土器裏中等	51	113	—	國版15	瓦質	羽釜(口縫)	2区	包含層	—
37	第10回	—	土師器	把手	1区	土器裏中等	60	114	—	國版15	瓦質	羽釜	3区	包含層	—
38	第10回	圓盤14	瓦器	把手	1区	土器裏中等	20	115	—	國版15	土師質	羽釜(口縫)	3区	包含層	—
39	第10回	—	瓦質器	雪平鍋	1区	空盒層	40	116	—	國版15	瓦質	片口鉢	3区	包含層	—
40	第18回	圓盤17	須恵器	杯蓋	3区	241	117	—	國版15	須恵質	片口鉢	3区	包含層	—	
41	第18回	圓盤17	須恵器	杯蓋	3区	298	10	—	國版15	須恵質	片口鉢	3区	包含層	—	
42	第16回	圓盤17	須恵器	杯蓋	3区	298	11	—	國版15	土師質	皿	3区	包含層	—	
43	第16回	圓盤17	須恵器	皿(脚無)	3区	241	7	—	國版15	瓦質	皿	3区	包含層	—	
44	第16回	圓盤17	須恵器	皿(脚無)	3区	241	13	—	國版15	瓦質	皿	3区	包含層	—	
45	第16回	圓盤16	土師器	高杯	3区	第5等 合金附	8	122	—	國版15	瓦質	小皿	3区	包含層	—
46	第16回	圓盤16	土師器	高杯	3区	第5等 合金附	9	123	—	國版15	瓦質	碗(高台)	3区	包含層	—
47	第16回	圓盤16	土師器	高杯	3区	合金附	111	124	—	國版15	瓦質	碗(高台)	3区	包含層	—
48	第20回	圓盤18	須恵器	杯	4区	第4等 空盒層	110	125	—	國版15	瓦質	碗(高台)	3区	包含層	—
49	第20回	圓盤18	須恵器	杯	4区	第3等 合金附	103	126	—	國版16	須恵器	器皿片	3区	包含層	—
50	第20回	—	須恵器	鉢	4区	112	101	—	國版16	須恵器	器皿片	3区	包含層	—	
51	第20回	圓盤18	瓦器	皿	4区	第3等 合金附	104	128	—	國版16	須恵器	器皿片	3区	包含層	—
52	第20回	圓盤18	瓦器	皿	4区	第3等 合金附	107	129	—	國版16	須恵器	器皿片	3区	包含層	—
53	第20回	圓盤18	瓦器	皿	4区	第4等 合金附	105	130	—	國版16	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
54	第20回	圓盤18	瓦器	皿	4区	第2等 71	102	131	—	國版16	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
55	第20回	圓盤18	瓦器	皿	4区	第2等 80	105	132	—	國版16	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
56	第20回	圓盤18	須恵器	寸り鉢	4区	第3等 合金附	103	133	—	國版16	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
57	第20回	圓盤13	石器	皿	1区	空盒層	3	134	—	國版16	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
58	第20回	圓盤13	石器	皿	1区	空盒層	2	135	—	國版16	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
59	第20回	圓盤13	石器	皿	1区	空盒層	5	136	—	國版16	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
60	第20回	圓盤13	石器	皿	3区	214 あざ	4	137	—	國版17	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
61	第20回	圓盤13	石器	皿	3区	241	1	138	—	國版17	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
62	—	圓盤13	須恵器	無蓋高杯(脚無)	1区	空盒層	—	139	—	國版17	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
63	—	圓盤13	須恵器	無蓋高杯(脚無)	1区	空盒層	—	140	—	國版17	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
64	—	圓盤13	須恵器	高杯(脚無)	1区	空盒層	—	141	—	國版17	土師器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
65	—	圓盤13	須恵器	皿(口縁)	1区	空盒層	—	142	—	國版17	須恵器	高杯(脚無)	3区	包含層	—
66	—	圓盤13	須恵器	把手	1区	空盒層	—	143	—	國版17	須恵器	把手	3区	包含層	—
67	—	圓盤13	土師器	把手	1区	空盒層	—	144	—	國版17	須恵器	把手	3区	包含層	—
68	—	圓盤13	須恵器	片(溶接)	1区	空盒層	—	145	—	國版17	須恵器	把手	3区	包含層	—
69	—	圓盤13	須恵器	片(溶接)	1区	空盒層	—	146	—	國版18	瓦質	三足羽釜(脚)	4区	43	—
70	—	圓盤13	土師器	皿	1区	空盒層	—	147	—	國版18	瓦質	三足羽釜(脚)	4区	包含層	—
71	—	圓盤13	土師器	皿	1区	空盒層	—	148	—	國版18	瓦質	三足羽釜(脚)	4区	包含層	—
72	—	圓盤13	土師器	皿	1区	空盒層	—	149	—	國版18	瓦質	三足羽釜(脚)	4区	包含層	—
73	—	圓盤13	土師器	皿	1区	空盒層	—	150	—	國版18	瓦質	三足羽釜(脚)	4区	包含層	—
74	—	圓盤13	土師器	皿	1区	空盒層	—	151	—	國版18	瓦質	三足羽釜(脚)	4区	包含層	—
75	—	圓盤13	土師器	皿	1区	空盒層	—	152	—	國版18	土師器	小皿	4区	包含層	—
76	—	圓盤14	白磁	碗(高台)	1区	空盒層	—	153	—	國版18	土師器	小皿	4区	包含層	—
77	—	圓盤14	白磁	碗	1区	空盒層	—	154	—	國版18	須恵器	把手	4区	包含層	—

図 版



調査区（3区）遠景（北から）

図版 1
1区・2区全景

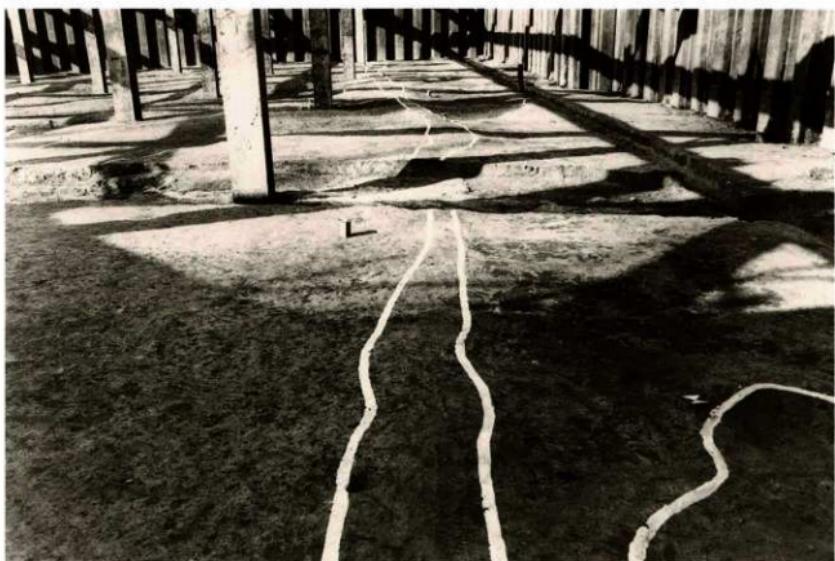


(西が上)

図版2 1区検出遺構



a 南壁断面



b 畦畔 (南から)

図版 3

1区検出遺構



a 遺構 3 断面（東から）



b 遺構 6 断面（東から）



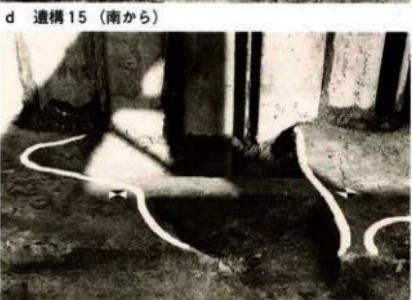
c 遺構 10 断面（西から）



d 遺構 15（南から）



e 遺構 22 断面（西から）



f 遺構 23 断面（西から）

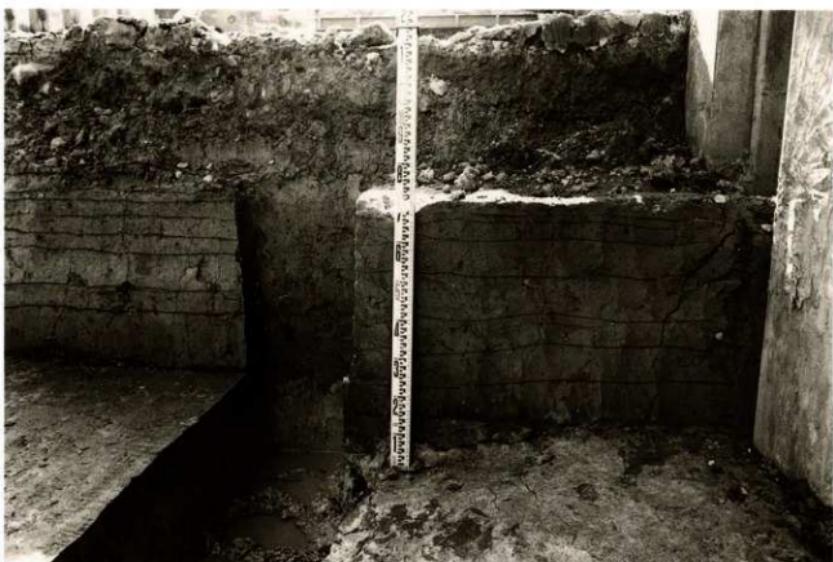


g 遺物出土状況



h 遺物出土状況

図版 4
2区検出遺構



a 南壁断面



b 畦畔（北から）

図版 5
2区検出遺構



a 遺構 33 断面（東から）



b 遺構 35 断面（西から）



c 遺構 49 断面（北から）



d 遺構 50 断面（北から）



e 遺構 53 断面（西から）



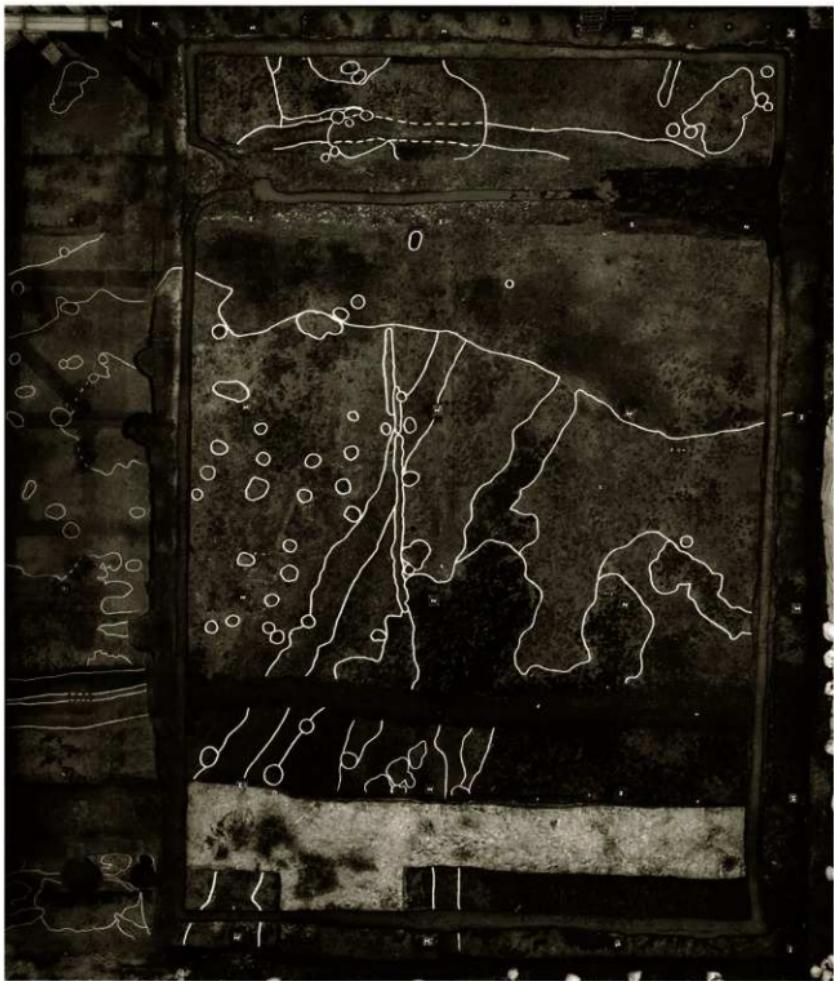
f 遺構 56 断面（西から）



g 遺構 67 断面（東から）



h 出土遺物



(北が上)

図版 7
3区検出遺構

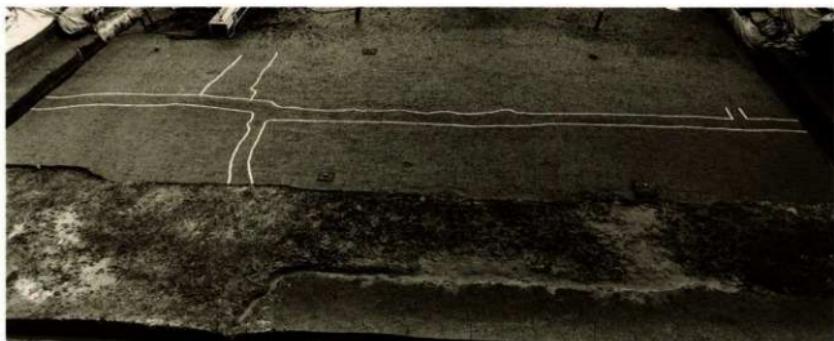


a 第1面全景（北から）



b 第2面全景（東から）

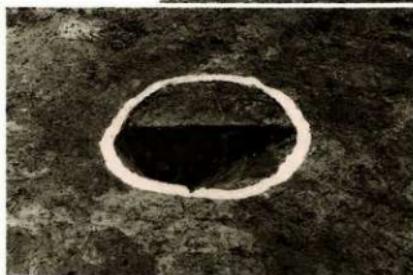
図版 8
3区検出遺構



a 畦畔（南から）



b 畦畔断面（西から）



c P-246 断面（南から）



d 遺構 230・P-231 断面（南から）

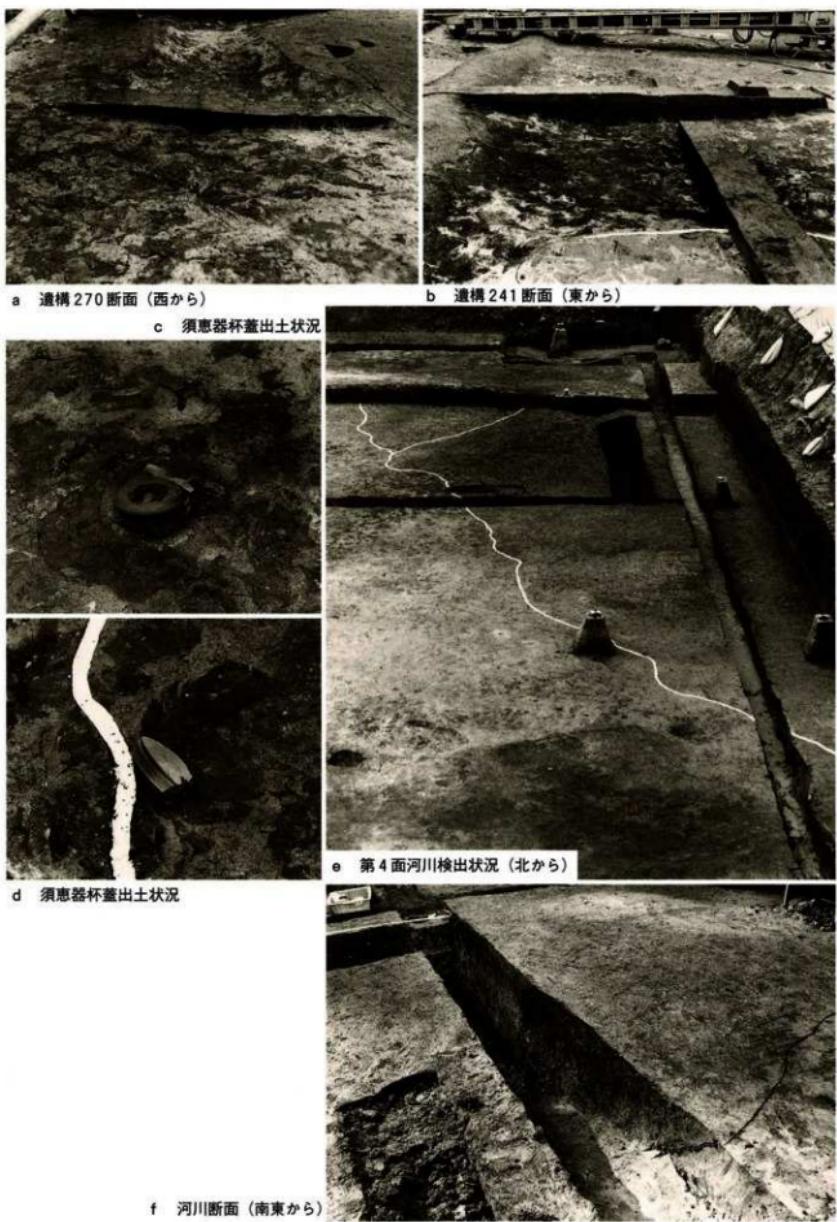


e 遺構 293 断面（西から）



f 遺構 283 断面（北から）

図版 9
3区検出遺構



図版 10
4区検出遺構

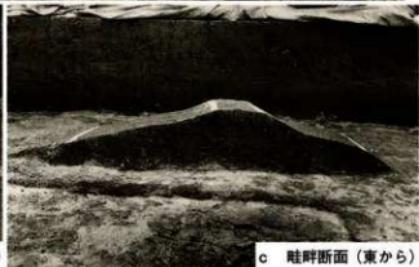
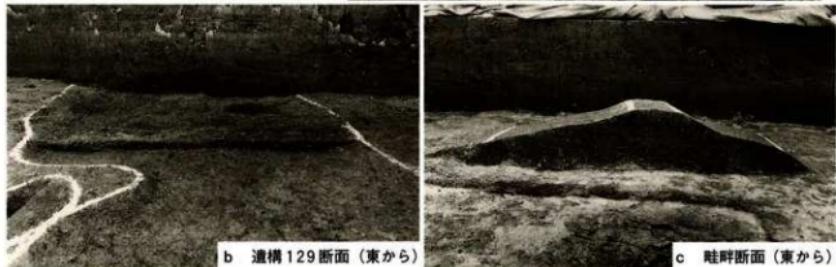


a 第2面全景（南から）



b 第3面全景（北から）

図版 11 4区検出遺構



図版
12
1区出土遺物



1



2



8



6



24



34



13



35

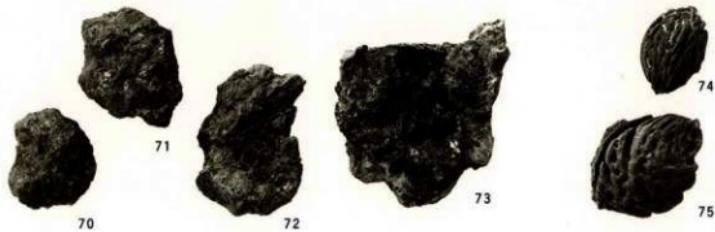
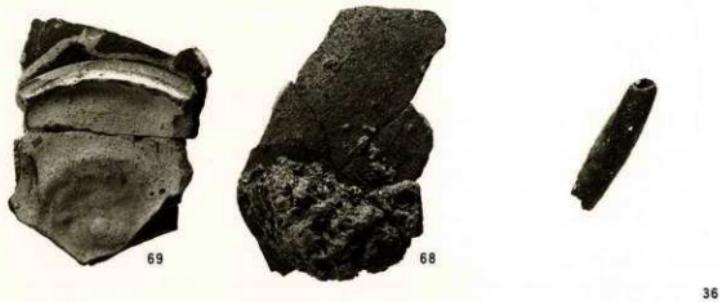
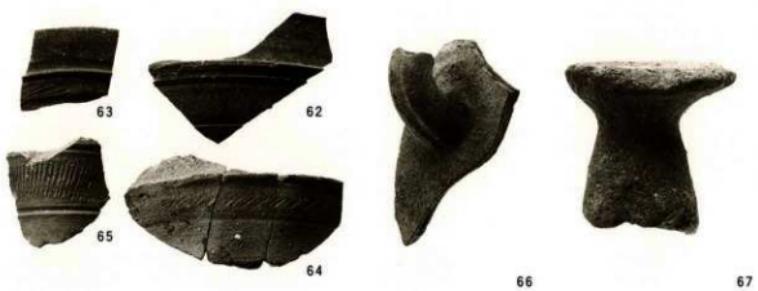


28

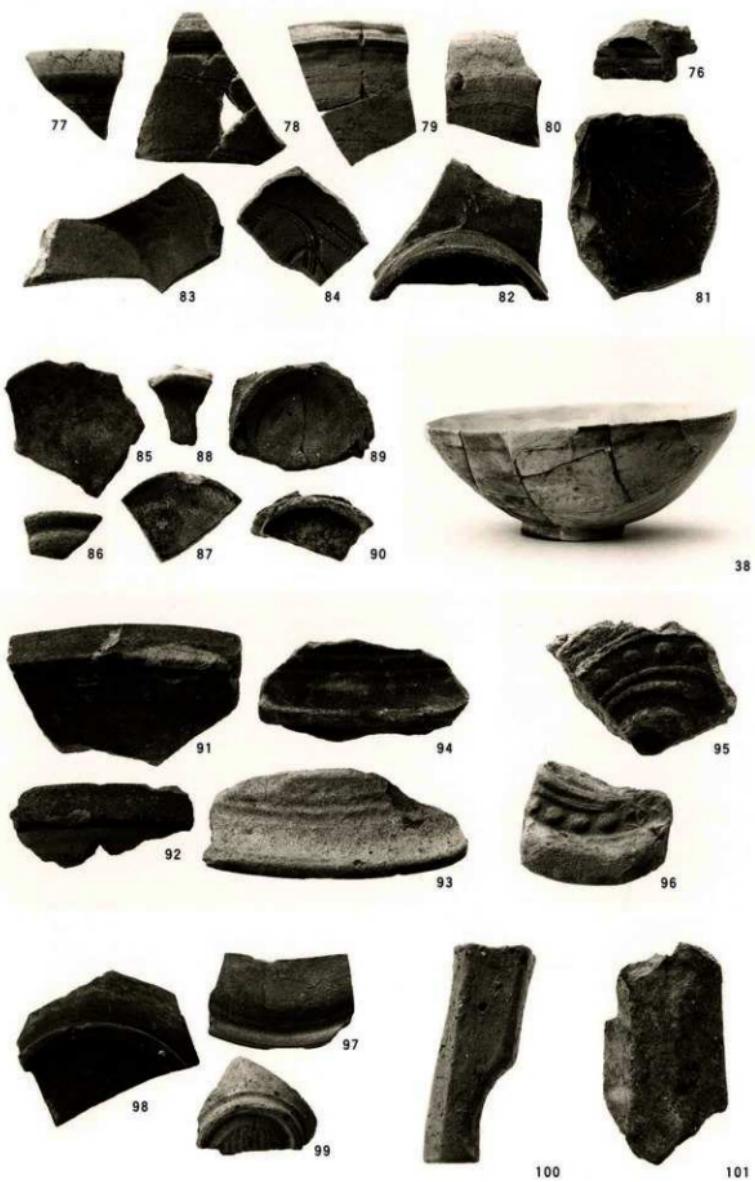


30

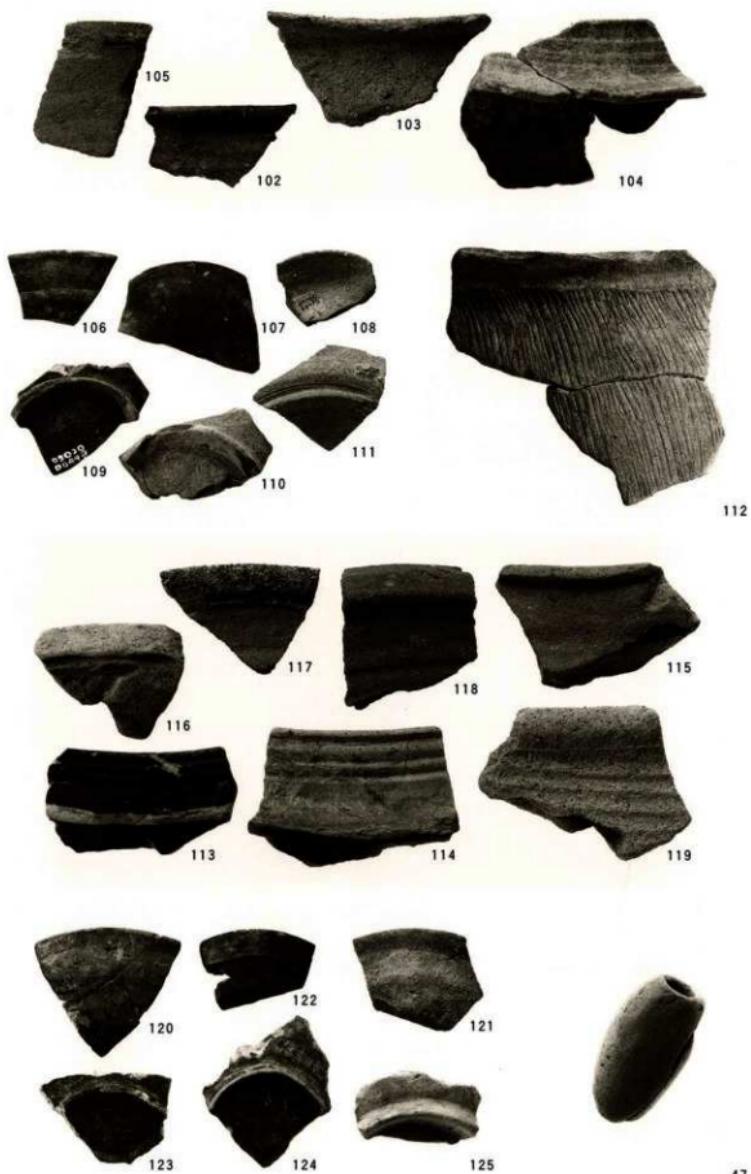
図版
13
1区出土遺物



図版 14
1区出土遺物



図版 15
2区・3区出土遺物



図版
16
3区出土遺物



46



45



126



128



127



129



130



131



132



133



134



135



136



61



60



61'



60'

図版 17
3区出土遺物



42



41



40



44



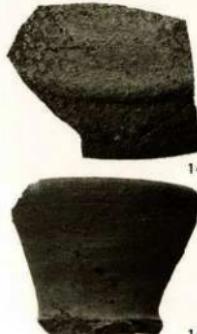
43



137



138



140

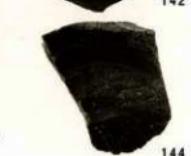


141



142

143

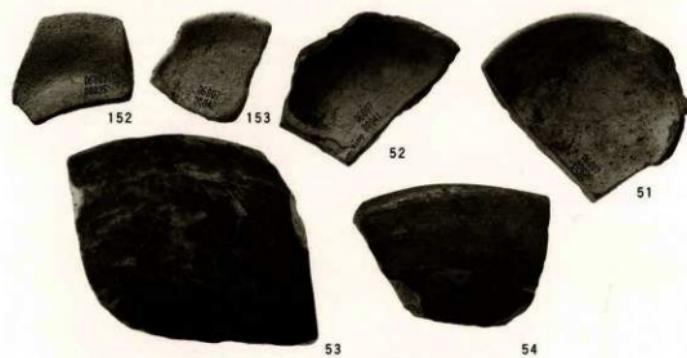
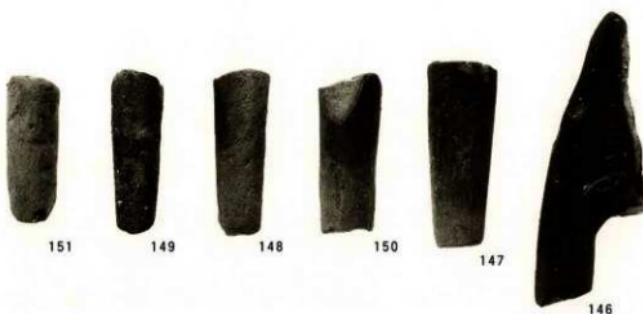


144



139

図版 18
4区出土遺物



報告書抄録

大阪府埋蔵文化財調査報告2007-7

大和川今池遺跡

発行 大阪府教育委員会
〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目
TEL 06-6941-0351㈹

発行日 2008年3月31日

印刷 株式会社中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL 06-6976-8761

